The Article 9 Society Hiroshima
第九条の会ヒロシマ
会報118号
2023年9月

世話人代表　藤井純子　　URL：http://9-hiroshima.org/
連 絡 先　〒734-0015　広島市南区宇品御幸1-9-26-413
TEL：070-5052-6580　　FAX：082-255-6580
E-mail：fujii@jca.apc.org（藤井）
郵 便 振 替　01390-5-53097 第九条の会ヒロシマ 年会費2,000円

戦争させない！　それが民意だ！

憲法を活かそう！ストップ！改憲 8.6 新聞意見広告 23 には「岸田大軍拡・憲法無視はもう許せない」「日本は戦争をしない国ではないか」「憲法 3 原則は大切だ。憲法を活かせ」などのメッセージがたくさん寄せられた。多くのご賛同を頂き、大変心強く、心から感謝の思いでいっぱいだ。

岸田政権の大軍拡、2024 年度概算要求額で防衛費は、安保 3 文書時よりさらに 1 兆円増やして約 7 兆 7 千億円。「精密誘導弾」や「極超音速誘導弾」量産費など、敵基地攻撃能力があるものばかりで、戦闘機や艦船、弾薬の充実、自衛隊組織の強化…
8 月 23 日、岸田首相の指示で殺傷武器の輸出解禁に向けた与党実務者協議が開かれた。報道では、① 殺傷武器の輸出禁止を「救難、輸送、警戒、監視、掃海」の場合可能。② 日英伊共同開発の次期戦闘機を念頭に開発相手国や日本からの第三国輸出を容認する。③ 武器輸出の目的に「侵略や威嚇を受けている国への支援」などを追加　④ 退役する F15 戦闘機の部品輸出を可能とするなどとし、それが防衛相概算要求に反映された。

近隣諸国から見れば正に「戦争国家」であり東アジアの平和を損なう。世論調査では殺傷武器輸出反対が 6 割を超え、民意は明らかだ。琉球弧へのミサイル配備、全国に弾薬庫 130 を配置、ウクライナ支援にかこつけた武器輸出、同盟国への攻撃に反撃すれば、もはや専守防衛ではない。米バイデン大統領はしたたかに台湾有事を言いつつ中国習近平主席との首脳会談を模索する。岸田首相は閣僚と共に憲法を読み直し、外交に力を注ぐ時。

中国・関西電力の使用済み核燃料「中間」貯蔵施設計画も国策だ。
4 月 28 日閣議決定の「特定放射性廃棄物最終処分に関する基本方針」で国が電力会社の後押しをしたことは間違いない。破綻した核燃料サイクルに、国も電力会社も未だしがみつき、「中間」貯蔵としているが「核のゴミ捨て場」になる可能性は大きい。祝島など周辺市町の住民の心配に耳をか傾けるよう、この秋、広島でも、山口、島根と共に様々な行動が計画している。

福島で核汚染水の海洋投棄が始まった。国も東電も理解が得られなければ進めないとしていた約束を反故にした。「みんなの海を汚すな」という国内外の人々の心配は当然だ。その上、周辺諸国との対立を招いたことは政治の失敗であり中止すべきだ。

8.6 広島平和宣言で、明確に「核抑止論」に反対した松井市長。
湯崎県知事は「核抑止が破綻して、地球上の全ての生命に対し、責任を負えるのか」と、被爆者や市民の思いを代弁した。原爆被害者をはじめ、核廃絶を願う人々の運動の成果だ。
しかし広島県は産業廃棄物の投棄で全国 2 位である。命の水の汚染に悲鳴を上げる人々の声を聴こうとしない。（p5 ～ 7）
また広島市から 80 キロの上関に使用済み核燃料＝「核のゴミ」が貯蔵されることにだんまりを決め込んでいる。両首長に「命の危険に対し、責任を負えるのか」を問い、要請行動は続く。

安倍政権以降、政府は議論を避けて国会を開かない。集団的自衛権容認、敵基地攻撃能力保有、殺傷能力のある武器輸出、核汚染水の海洋投棄…　岸田政権は、民意を無視して「憲法改正」を来年 9 月までに行うと言い続ける。そこで私たちが「憲法も国会も軽視して内閣で決めるんだから改憲に反対したところで…」と諦めてどうなる。政府が軍拡し戦争へ突き進む時、もし改憲されていれば「憲法違反」と言えないではないか。米国に操られ、自衛隊が前線に立ち、他国の人々と殺し合い、沖縄も岩国も標的だ。だからこそ戦争させないために諦めるわけにはいかない。国会前で、沖縄で、大分で、名古屋で、札幌…　全国各地で頑張っている仲間と共に、私たちもこの広島で行動する。

広島県 9 条の会ネットワークはマスコミ九条の会を中心に 9 月に県内交流会を行い、今後九条の会ならではの幅広い繋がりを地道につくり直していこうと話し合っている。**ヒロシマ総がかり**は 11 月 3 日、県内各地から原爆ドーム前憲法集会に集いパレードを行う。**各課題での市民活動は憲法を活かすこと**であり、大変心強い。
バナーを持って是非ご参加を！　　2023 年 9 月 7 日　藤井純子

会報118号　もくじ

1　戦争させない！　それが民意だ！…… 藤井純子
2　朝鮮戦争停戦70年、国際的な連帯で終戦へ！…… 湯浅一郎
4　上関町へ使用済み核燃料の「中間」貯蔵施設反対　…… 渡田正弘
6　いのち・水・くらしを守るのはだれか（本郷産廃処分場）…… 三島弘敬
7　『はだしのゲン』が開けたパンドラの箱　…… 岸直人
10　8.6新聞意見広告　報告　…… 制作者から　石岡真由海
　　世話人から　大道美代子、島村眞知子、西浦紘子
11　8.6新聞意見広告に寄せられた声
12　賛同者・会員さんからのメッセージ　19 活動報告　20 お知らせ・後記

日本国憲法公布から 77 年　11 月 3 日（水）13 時（予定）
ヒロシマ総がかり 原爆ドーム前 憲法集会＆パレード

主催：戦争させない・9 条壊すな！ヒロシマ総がかり行動実行委員会
連絡先：090-9060-1809　fujigen@abelia.ocn.ne.jp（藤元）

11.3 のチラシがこの会報発送に間に合いませんでしたが、9 月末にはできますので、必要な方はご連絡ください。

朝鮮戦争停戦 70 年、国際的な連帯で終戦へ！

End the Korean War キャンペーン

湯浅一郎（ピースデポ代表）

「ここに、70 年もの間終わらない戦争がある。70 年間会えず、お互い懐かしさに思い焦がれる家族がいる。戦争が残した苦しみ、分断と敵対の傷を引きずりながら 70 年間生きてきた人々がいる。今年 2023 年は朝鮮戦争の停戦協定締結 70 年になる年だ。朝鮮戦争が終わった後、どれほど多くのことが変わったのか考えてみると、この 70 年という遥かな歳月が胸に迫ってくる。

朝鮮戦争は『しばし銃声が止んだ』だけの状態なのであり、戦争が終わったわけではない。朝鮮半島では世界的に類例のない長い休戦状態が続いている。ときに私たちは無感覚になりがちだが、朝鮮半島にいるほとんど多くの人々は、その生涯を戦争の脅威と隣り合わせに生きていかねばならない。」

引用がやや長くなったが、これはピースデポの情報・交流誌「脱軍備・平和レポート 22 号」への韓国参与連帯・平和軍縮センター長ファン・スヨンさんの寄稿論文「朝鮮戦争停戦 70 年、平和は可能だ。私たちが一緒に歩むなら…。」の冒頭の文章である。現在、朝鮮半島で暮らす 70 歳以下の市民は、すべて準戦時状態の中で暮らしてきているのだという事実は、あまりにも重い。

北東アジアでは、ここ数年、にわかに「台湾有事」なるものが意識的に喧伝され、それへの対処を名目として南西諸島への自衛隊ミサイル配備が続いている。この背景には、米バイデン政権による中国との「戦略的競争」に勝つための中長期的な対中政策があり、日本は、ロシアのウクライナ侵略も利用しつつ、まんまとそれに乗った形で軍拡を正当化している。しかし、北東アジアで一刻も早く取り組むべき外交課題は、未だに終わらない戦争のもとで、同じ民族がにらみあっている朝鮮半島の分断をいかにして終わらせるかであることを忘れてはならない。第 2 次世界大戦前まで植民地としてきた日本に責任の一端があることを含めて、最優先に取り組まねばならない。

2023 年 7 月 27 日、朝鮮戦争休戦協定の締結から丸 70 年が経過した。このメモリアルな年に、冷戦構造が続く朝鮮半島の対立の構図はより深刻化している。これを打開するには、一刻も早い朝鮮戦争の終戦と平和協定の締結を求める国境を越えた世論の形成が必須である。そこで、韓国発の朝鮮半島終戦平和キャンペーンの主張と取り組みを紹介する。

矛盾を激化させるだけの日米韓 3 か国の軍事連携強化

今、朝鮮半島はいつ武力衝突が発生するかもわからないという深刻な状況が続いている。南北の対話が一切閉ざされた状態で、双方が頻繁に大規模な軍事演習を積み重ねている。そうした中、一方の当事者である韓国、米国、日本は、そのような課題はないかのごとくに、軍事同盟の強化へ向かっている。それを象徴するのが、2023 年 8 月 18 日、米ワシントン郊外のキャンプデービッドにおいて開催された日米韓 3 か国首脳会談である。この会議で 3 か国は、「キャンプデービッド原則」、及び「日米韓首脳共同声明」を挙げ、「日米韓パートナーシップの新時代」を宣言し、「日米同盟及び米韓同盟の戦略的連携を強化し、日米韓の安全保障協力を新たな高みへと引き上げる」ことで一致したとしている。これからの動き次第ではあるが、確かに大きな画期となる危険性を秘めている。

まず「キャンプデービッド原則」で「日米韓 3 か国は、インド太平洋国家として、国際法の尊重、共有された規範及 び共通の価値に基づく自由で開かれたインド太平洋を引き続き推し進める。我々は、力又は威圧によるいかなる一方的な現状変更の試みにも強く反対する」とする。

朝鮮半島問題については「関連する国連安保理決議に従った、北朝鮮の完全な非核化へのコミットメントの下で団結している。（略）。我々は、自由で平和な統一された朝鮮半島を支持する」としている。昨年 5 月まで、米韓首脳声明等では、「朝鮮半島の完全な非核化」という文言が使われていたものが、初めて「北朝鮮の完全な非核化」となり、北朝鮮だけを敵視する姿勢が強調されている。米国は、「朝鮮半島の完全な非核化」を主張しているが、韓国の尹政権と日本政府の意向が反映された形になっている。また「キャンプデービッド原則」には、終わっていない朝鮮戦争と南北に分断された朝鮮半島についての現状認識やそれに対する取り組みの方向性が全く示されていない。

逆に「共同声明」では「日米韓三か国は本日、組織化された能力及び協力を強化するため、毎年、名称を付した、複数領域に及ぶ三か国共同訓練を定期的に実施する意図を有することを発表する」として、3 か国の軍事連携を定期化するとしている。これは過去にない初めてのことである。日米韓 3 か国共同訓練は、2016 年の安保法制の施行以降、2017 年に初めて登場し、2022 年 9 月以降には断続的にミサイル防衛、及び対潜水艦訓練などが行われてきていた。今回、それを首脳共同声明の中で

明記した意味は極めて大きい。それにしても安保法制の何処にそのようなことを正当化できる要素があるのか説明を求めていくべきであろう。

韓国発の朝鮮半島終戦平和キャンペーンの提案

このような情勢を踏まえて韓国発の朝鮮半島終戦平和キャンペーンは以下の取り組みを提起している。

第 1 に、関係国、特に韓米は朝鮮半島の軍事的緊張を激化させるすべての軍事行動を直ちに中断すべきである。武力の示威行為は悪循環を加速させるだけで、決して解決にはならない。

第 2 に、国連安保理決議に基づく対北制裁の目的と効果を再考すべきである。北朝鮮への制裁と軍事的圧力を強めることで北朝鮮に核を放棄させようとする政策は、これまで約 20 年以上にわたり失敗し続けてきた。逆に 2018 年の南北板門店宣言とシンガポール米朝共同声明の時のように、対話と交渉が進んでいる間、北朝鮮の核実験や弾道ミサイル発射実験は中断していたのである。

北朝鮮に対する国連の安保理決議には、制裁のみならず対話による平和的、包括的解決策も含まれている。2017 年以来、核実験はしないというモラトリアムが行われていた時、これに従って、北朝鮮への制裁は緩和されなければならなかったのである。

第 3 に、安保理決議の緩和をするためにも、米国による北朝鮮に対する敵視政策を止めさせることが必要である。70 年にもわたって続いてきた不安定な休戦体制を終わらせ、敵対関係を一般的な外交関係に転換し、相互信頼を構築して軍事的脅威を解消しなければならない。

第 4 に、第 3 へ向けた努力の過程で、平和協定の締結、米朝・日朝関係を改善し国交正常化を果たし、朝鮮半島の非核化を包括的で実効性を伴う方向での平和交渉を始めなければならない。また、「朝鮮半島の非核化」は、北朝鮮の核放棄だけではすまない。韓国と日本が依存している米国の核の傘に依存する政策をなくすことが不可欠である。その答えは、朝鮮半島の南北 2 か国と日本が非核兵器地帯を構成する北東アジア非核兵器地帯構想を推進することである。それにより、3 か国は核兵器禁止条約加盟のための環境づくりを進めることができる。

大きく声を集める「朝鮮半島終戦平和キャンペーン」

朝鮮戦争の開戦から 70 年となった 2020 年、この長い戦争を終わらせ休戦を平和に変えることをめざし、韓国の宗教界と市民社会は「朝鮮半島終戦平和キャンペーン（Korea Peace Appeal Campaign）」を立ち上げ、日本、米国をはじめとした世界中の市民に共働することを呼びかけた。キャンペーンは「Korea Peace Appeal 署名」運動を中心に行ってきている。
そして今年は、「どんなことがあっても二度と朝鮮半島で戦争を起こしてはならない」という切なる思いから、さらに大きく「停戦 70 年朝鮮半島平和行動」をおこなっている。これには韓国の 7 大宗教団体、700 以上の韓国における宗教、NGO 団体、及び約 70 か国の国際パートナー団体とネットワークが共に活動している。

- 朝鮮半島の戦争反対、平和実現 100 万人署名運動 (Korea Peace Appeal)
- 米韓合同軍事演習と日米韓軍事協力中断を要求する活動
- 全世界 300 か所の平和行動
- 7.22 停戦 70 年朝鮮半島平和大会と行進
- 7.27 停戦 70 年国際シンポジウムなど

集めてきた署名は、今年 10 月の国連総会で南北米中政府と国連事務総長に手渡し、関係国に戦争危機の解消と対話再開を積極的に求めていくとしている。

これまで 70 年間たどりつけなかった未来をつくるこの道に、あなたの参加がぜひとも必要だ。スヨンさんの寄稿の表題は「朝鮮戦争停戦 70 年、平和は可能だ。私たちが一緒に歩むなら‥」である。このまま休戦状態を続けさせるのか否かは北東アジアに暮らす私たち一人一人の意志にかかっていることを認識し、国境を越えて連携した行動を起こしていくことが求められている。まずは署名に賛同すること、そして日米韓 3 か国合同訓練の中止を求める反対行動に連携して取り組むことなど、できることは色々ある。

朝鮮半島の戦争反対、平和実現のための署名は下記で行える。
https://jp.endthekoreanwar.net（日本語）
https://en.endthekoreanwar.net（英語）

建設絶対反対！　上関町へ使用済み核燃料の「中間」貯蔵施設！？

渡田正弘（上関原発止めよう！広島ネットワーク）

8 月 2 日、中国電力が原子力発電所から出る危険な「使用済み核燃料」を一時的に保管する「中間貯蔵施設」を、関西電力と共同で山口県上関町に建設するべく調査したいと上関町に申し入れた。それに対し、当ネットワークは、8 月 3 日中国電力本社前で、「核のゴミ捨て場である中間貯蔵施設は要らない！」と訴え、抗議声明を手渡した。しかし、8 月 18 日上関町長は町民の声をきちんと聞かずして「調査受け入れ」を中電に回答した。

1、「中間貯蔵施設」とは「核のゴミ捨て場」

「中間貯蔵施設」とは、使用済み核燃料を再処理するまで一定の期間貯蔵・管理するための施設だ。東京電力と日本原子力発電が出資する青森県むつ市の施設が完成間近で、上関町が全国で 2 例目になる可能性がある。

◆「核燃料サイクル」は事実上破綻

しかし、再処理によりプルトニウムを取り出し、MOX 燃料として繰り返して使うことを目指す国策の「核燃料サイクル」は現在行き詰まっており、事実上破綻している。それ故に、「中間貯蔵施設」はまやかしで、事実上の「最終処分施設」である。つまり、危険な迷惑施設の「核のゴミ捨て場」となる。

◆関西電力では 4 年半後に満杯

現在、全国の原発敷地内のプールで保管する使用済み核燃料は 1 万 6 千トンを超えて溜まり続けている。特に関西電力は、7 月下旬に再稼働した国内最古の高浜 1 号機（運転開始から 48 年経過、福井県高浜町）をはじめ、国内最多の原発 6 基を稼働させている。それゆえ、使用済み核燃料を一時的に保管するプールが今後 5 ～ 7 年で満杯になる見通しである。

◆福井県に搬出候補地明示を約束

関西電力は青森県の施設を共同利用する案を模索したが、地元自治体の反対で頓挫した。また、実証研究用に約 200 トンをフランスへ搬出する計画を公表したが、福井では「問題の先送りだ」と反発を受けた。関西電力は、福井県との間で「中間貯蔵施設」の県外候補地を今年末までに示すと約束。約束を守れない場合は 3 基の運転を停止すると自ら明言。つまり、関西電力は長年の課題に切羽詰まっているのだ。

◆関西電力に利用される中国電力

今回の建設への動きは中国電力からの誘いで、関西電力にとって「渡りに船」と報道されているが、それは嘘で逆だろう。本当は、岸田政権の原発推進政策を強く支える関西電力にうまく丸め込まれた可能性大。中国電力は、「カルテル問題」で関西電力に騙され（抜け駆けされ）、約 707 億円の課徴金を課されたばかりなのに何を考えているのか。

2、世界の潮流は再処理せず直接処分

世界では、原発から出た使用済み核燃料を再処理せず、地下深くに埋めて直接処分する方法が主流だ。これは未来世代へ核のゴミと危険性の先送りという無責任極まりない方法。世界ではプルトニウムの分離で核兵器に転用される危険性を危惧し、米国を中心に再処理の計画を中断。また MOX 燃料の経済性のなさも明確。仮に再処理をしても、危険な高レベル放射性廃液が出る。長期的に管理することを考えると、日本は「核燃料サイクル」幻想にしがみつくのをやめ、再処理のような余計なことをせず、そのまま直接処分に方針転換するしかない。日本も「自分の国で出したものは自分の国で処分する」べきだ。

根本的解決策は、まずは原発の稼働を全てストップすること。そして、これまで溜まり続けた使用済み核燃料は各原発敷地内で永久保管するしかない。

◆中国電力が上関町を「原発マネー中毒」に

今回の「中間貯蔵施設」建設へ向けた調査を行うだけで、上関町には国から年間 1 億 4 千万円の交付金が入る。相も変わらず“馬に人参”方式で、愚かな上関町町長や町議会議員（原発推進派の建設・商工業者が中心）が、交付金に食いついた構図である。まさに「原発マネー」中毒症状。もちろん中毒にさせた悪人は日本政府と中国電力である。

◆上関町民をこれ以上苦しめるな！

原発建設が見込めない現状では、「原発マネー」依存体質から抜けられない上関町財政は逼迫している。それゆえ、上関町は「交付金」で「地域振興」できるという甘い幻想にしがみつき、中国電力に新たな「原発マネー」をおねだり。それを受けた中国電力は、2019 年から町議会議員を「中間貯蔵施設」見学ツアーに招待し、根回しを行っていたのだ。「核のゴミ捨て場」は、地震等が起きれば瀬戸内海に永久的核汚染をもたらす危険性が高い。原発以上に必要のない「核のゴミ捨て場」まで上関町に押し付けることは、絶対に許さない。

山口県は勿論、広島でも 8 月 3 日、上関ネットは抗議行動を行った。8 月 25 日には、広島県内 6 団体連名で「貯蔵施設建設撤回の申入れ」を行った。今後も粘り強く撤回するまで交渉を続けていきたい

23/8/26
中間貯蔵施設の撤回を申し入れ
中電に広島の市民６団体
中国新聞 8.26
中電の担当者（手前）に、中間貯蔵施設の

島根原発再稼働」反対の署名活動につきましては、19 ページに掲載しています。署名と行動の応援をよろしくお願いいたします！

本郷産廃処分場問題　　いのち・水・くらしを守るのはだれか

三島弘敬（ストップ本郷処分場事務局長）

2018 年当初の計画図　hpより

1．本郷処分場とは

安定型産業廃棄物本郷最終処分場（本郷処分場）は、三原市と竹原市の市境、分水嶺が処分場敷地の真ん中を通る場所、竹原市の賀茂川、三原市の沼田川の水源となる三原市本郷町日名内観音平に、標高約 200m、約 10 万㎡の林地を 100 ㎥掘削して開発、投棄計画した処分場。東京の民間企業ジェイ・エー・ビー協同組合が、三原市約 8 万人、竹原市約 2 万人、合わせて 10 万人の水道水源となる場所に建設する計画を申請したもの。

建設場所の地質は、裂罅花崗岩、無数の亀裂、ほとんど真砂土の状態の林地で、以前は保安林に指定されていた。現在もレッドゾーン、イエローゾーンに指定されたもろく崩れやすい土地で、このような場所に「掘って埋めるだけ」の安定型最終処分場が建設されれば、水質の汚染は容易に想定される。

2．広島県知事の建設許可までの経緯

5 年前、2018 年 6 月 25 日の業者による第 1 回建設説明会以降、地元住民への説明会は業者が一方的に中断したまま、建設申請は進められた。

住民は、建設反対署名に取り組み、わずか 3 カ月で 4 万 3000 名を超える署名を集め広島県知事に提出した。これは、両市長の選挙得票数を上回る民意といえる署名だ。さらに住民による請願が、三原市、竹原市議会で採択され、生活環境への影響を懸念、慎重な対応を求める意見書が広島県に送付された。

縦覧に対して利害関係住民からの意見書は 500 通を超え、中には、処分場近隣では住民が井戸水で生活すること、生活環境に影響を受ける問題提起もある。また、建設許可の審議でも、広島県が委嘱した有識者からも近隣の井戸水生活者への影響は避けられないと危惧する意見が再三あったが、広島県行政は業者報告のまま井戸水生活者は存在しないと説明した。

2020 年 4 月 23 日、広島県知事は、県民の民意である反対署名や三原市竹原市議会の意見書を無視、住民意見書も有識者の意見に一顧だにせず建設を許可した。

3．広島地裁に提訴

住民は、頼りの行政に見捨てられ、やむなく司法の判断を求める以外、命と暮らしに不可欠な水を守る術はなく、広島地裁に 2020 年 6 月 8 日、「業者に対する建設差し止め仮処分申請」、2020 年 7 月 15 日「行政に対する建設許可取り消し訴訟」の二つを提訴した。原告団は 517 名、山田延廣弁護団長を含め 7 名の弁護団、アーサービナードさんを団長にした応援団など様々に結成された。

2021 年 3 月 25 日、仮処分申請 1 審（広島地裁）では、「平穏生活権、浄水享受権」（憲法第２５条）に基づき、勝訴した。しかし、2022 年 6 月 30 日の仮処分異議審（広島高裁）では、「汚染物が場内に搬入される。汚染物が場外に漏出する。」とは認定したが、「住民が、井戸水に浸透することを立証していないので判断できない。」として建設許可を認める不当決定が下された。この判決を受けて、広島県知事は、2022 年 8 月 26 日から 5 年間の「産業廃棄物処分業許可証」を発行し、業者は、搬入、埋め立ての操業を開始。

一方、行政訴訟では 2023 年 7 月 4 日、広島地裁は「広島県の調査、審議、判断の過程には、著しい、看過できない過誤と欠落があり違法である。」と断罪、「建設許可を取り消す」ことを命じる勝訴判決を下した。

仮処分異議審（高裁）で住民側敗訴の審判を下した裁判長が、行政訴訟では、住民勝訴の判決を下した。廃掃法の規定、指針に違反するとした画期的な判決。

（行政訴訟判決の骨子）

2023 年 7 月 4 日、広島地裁は、「産業廃棄物処理施設設置許可処分取り消し請求事件」（本郷処分場建設許可取消し行政訴訟）において、私たち原告の主張を認め、広島県に「設置許可を取り消す」命令を下した。

≪地裁判断≫

生活環境影響調査項目である「地下水」「水質」の２点をめぐる処分行政庁の調査や審査及び判断の過程には、看過しがたい過誤、欠落があると認められる。処分行政庁の判断に不合理な点があるものとして、その判断に基づく本件許可処分は違法である。

≪判決主文≫

処分行政庁が、ジェイ・エー・ビー協同組合に対して、令和 2 年 4 月 23 日付け産業廃棄物処理施設設置許可処分を取り消す。

争点と判断

争点１．原告適格について

「法律上保護された利益を侵害されるおそれのある者」（行政訴訟法９条）は、処分場周辺に居住する住民のうち、処分場からの有害な物質が排出された場合にこれに起因する大気や土壌の汚染、水質の汚濁、悪臭などによる健康または生活環境に係る著しい被害を直接受けるおそれのある者である。このことから、関係地域に居住する「井戸水生活者」６名と「農業従事者」２名を原告と認める。

争点２．産廃処分場設置要件である「廃棄物処理法第15条の２」に適合した調査や審査、及び判断であるかどうか。

許可申請には、生活環境影響調査書の添付が義務付けられ、その内容が「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」に基づいて、適正に配慮がなされているかどうかについて審査すべきであり、その際に、関係市長、利害関係者、専門的有識者の意見を十分に尊重して県知事が判断する者である。その調査や審査及び判断の過程に看過しがたい過誤、欠落がある場合には許可が違法となる。

ア、「地下水」（井戸水）について

行政の「地下水」をめぐる現状把握に関する部分は、廃掃法15 条や調査指針に沿っていない。周辺地域の生活環境への影響を的確に予測し、その予測結果の分析を通して、その地域の生活環境の状況に応じた適切な生活環境保全対策の検討に結実させるためには、必要十分かつ正確な把握が不可欠の前提だ。

「地下水の採水・利用状況」の調査については、「施設計画地との距離が比較的近い場合は、採水可能なすべての既存井戸を対象とする。また、戸別訪問により井戸の有無と利用状況を確認するとともに、井戸の構造や地下水位等について把握する。」とある。しかし、処分行政庁の調査は、調査指針に沿って行われていないどころか、直下の飲用井戸水利用者が調査対象から漏れている。さらに、有識者や住民からの指摘があったにも関わらず、採水も戸別訪問による井戸の利用状況、構造、地下水位の確認もしていない。

イ、「水質」(農業用水）について

調査指針によれば、「水質は、浸透水が表流水系に放流される場合、浸透水の流出による公共用水域の水質におよぼす影響を検討する」、更に「放流位置、排水位置、水域の特性等を考慮し、水質の状況を適切に把握できる地点。農業等に支障が生じると考えられる場合は、農業の取水地点を調査する」とある。処分行政庁は、農業取水地点での調査を怠っている。更に、700m下流でも同一条件であるとして調査地点の設定を正当化するのは、牽強付会であるとのそしりを免れない。こんな杜撰な行政手続きは疑問だ。行政マンが違法手続きを行った裏の事情が隠されているようだ。癒着か？ 脅しか？ 政治介入 圧力か？

4．住民によって汚染水を発見～行政による水質検査

2023 年 6 月 16 日、産廃物の搬入が始まってわずか 9 カ月後、基準値を上回る（BOD54mｇ：基準値 20mｇ）汚染水が浸透水から検出された。

この検査は、住民が毎日監視しているなかで、 5月に河川に異臭を確認、6 月 7 日には泡と濁りが河川に垂れ流されたのを発見して三原市と広島県に通報したことが発端。

翌日 6 月 8 日、水質調査に駆け付けたのは三原市生活環境課。住民立ち合いでパックテストによる調査を行う。三原市は、直ちに検査結果を広島県東部厚生環境事務所（以後東部事務所）に情報提供した。

6 月 12 日、住民は、三原市長に正式な水質検査を要望するとともに、13 日、東部事務所に水質検査の実施を要望した。

6 月 16 日、東部事務所が処分場内の浸透水の水質検査を実施し、6 月 29 日に検査結果で BOD 基準値の 2.7 倍の汚染が確認され、同日、搬入と埋め立て停止の行政指導が出された。しかし、この行政指導は住民には知らされず、その後も連日、産廃搬入が継続。

5．それでも、広島県知事が控訴！？

2023 年 7 月 14 日、広島県知事は、広島高裁に控訴。

１審での判決を認めれば、広島県は業者から「損害賠償請求訴訟」は必至 ― 汚染水の確認、行政指導違反の確認をし、「警告」指導や「処分」を検討している中での控訴。

広島県は、「あくまで手続き上の問題であり、不備はない。」と主張している。

6．私たち原告団、三原市、竹原市の動き

原告団は、7 月 4 日、行政訴訟判決後に、県庁産廃対策課に要望行動を行った。

7 月 5 日、三原市に行政訴訟勝訴の報告と三原市からの意見書を再度だすように要望。

7 月 11 日、地元 12 団体による要望書、7 月 18 日、三原市竹原市の自治会を含む 32 団体の要望書を広島県知事に提出。

さらに、7 月 8 日、本庁産廃対策課に、7 月 10 日、広島県会議長に、7 月 20 日、東部事務所に対して、汚染の実態を訴えた。7 月 11 日、三原市長、竹原市長が、県知事に要望を伝えた。

三原市は、7 月 14 日、臨時議会を開催し、「処分場許可取り消し」を求める意見書を決議し、広島県に送付。竹原市は 7 月 27 日、臨時議会において意見書を決議し、広島県知事に手交した。この間、連日、市議・県議への要請、議員現地説明会の開催、「控訴するな」署名活動、現地監視行動とフル回転の取り組みを展開した。

7．広島県行政は、何をしているのか？ どこを見ているのか？　誰のためか？

住民が新聞報道で、搬入停止処分が出されたこと知ったのは 7 月 8 日。処分場に入る産廃搬入トラックを確認し、直ちに広島県産廃対策課に 10 時に通報。河村課長は、東部事務所に立ち入り調査を実施するよう命令した。

しかし東部事務所は、午後 1 時にやっと到着、事前に業者に連絡してからの立ち入り調査となった。搬入の際の書類により、行政指導に違反して搬入を繰り返したことを確認、再度の停止指導を行った。

住民は監視を継続、搬入、埋め立ては行われないが、山林の開発は継続され、何故か 7 月 16 日以降、処分場に 6 台の散水

車が連日入った。業者は、大量の水を検査井戸に注入するなど、検査をパスするために薄めたことを住民が本庁産廃対策課と東部事務所に通報した。

また 7 月 19 日、汚染排水を写真に収めようとした住民を、業者 5 人が取り囲み写真撮影にクレームをつけてきた。普段は黙って見ているが、その日は責任者まで駆け付け「訴えてやる」と恫喝する異常な対応。よほど見られたくない「何か」をしていたのだ。

その理由が分かった！

7 月 19 日、東部事務所は、「警告」指導を行った。「汚染浸透水の原因究明、水質の保全措置を講じること、浸透水の基準値以下が確認されるまでの搬入停止」という警告だった。しかし同日、「警告」に合わせて、東部事務所は二度目の水質検査も行っていた。この検査は、業者から東部事務所に、「原因は、浸透水の通るパイプに腐葉土や小動物が堆積していたから。そのパイプを洗浄して環境保全措置を完了した。」との報告を受けての検査だとしている。あまりにも手際のよい行政と業者の行動ではないか？　そして、広島県は 7 月 28 日、汚染基準値を下回ったとして「警告解除」、搬入及び埋め立ての再開を認めた。

住民・原告団は 7 月 31 日、広島県産廃対策課に「住民に何の説明もせず、質問への回答も延期したままの『警告解除』で汚染排水は今も垂れ流されている。」として抗議をした。

産廃対策課は、現地に一度も行かず、東部事務所に任せて対応していること、あくまで廃棄法の範囲でしか対応はしない姿勢に、住民から怒りの訴えが起こった。

また汚染の原因についても、業者報告書を鵜呑みにして調査もせずに済ませていたことが判明した。腐葉土や小動物の現認はしておらず、「調査は既洗浄後」だったと回答、報告書に小動物などの証拠写真さえ添付されていないことが判明した。行政訴訟で「看過しがたい過誤・欠落があり違法」と断罪された行政手続きと同じことが繰り返されている。

「警告解除」後も、頻繁に水質検査を実施するとは約束したが、本来行政は「憲法に保障された国民の権利を保障するために存在する」、この認識が広島県行政には欠落している。

北海道に次ぐ、産廃処分場全国第２位の広島県。現在、安定型産廃処分場建設の申請が７件もあるという。関係業者は「広島県は審査が緩い」、搬入業者も「なんでも搬入できる」と言う。広島県や市町は、他県他市にある「水道水源保護条例」や「産廃建設手続き条例」を制定しようとしない。広島県行政の産廃対策への認識と姿勢に問題がある。

8. わたしたちの「いのち・くらし・水」はだれが守る？！

「目の前の日名内川には水がいっぱい流れているのに、この水は引けない。情けない。」

空梅雨のなかのひと月半、雨らしい雨が降らない。稲は穂孕みの時期、今年のコメの出来を左右する、最も水を必要とするこの時期。本郷産廃処分場の直下で稲作をしている農業者の悲痛の叫びである。日名内川は、沼田川の支流、尾原川にそそぐ水源となる川である。その日名内川に、直接、本郷処分場は汚染排水を垂れ流しているのだ。先祖が切り拓き、代々守り続けてきた水田を清流で育てる米作への誇りがある。消費者を裏切ることはできない。汚染された水は引けない。現在も汚染排水は続いていて、６月の初め、この川に異臭と泡が確認されて約２か月間、この川からの水を引けない。わずかの山水を分け合いながらしのいでいる。

汚染排水を止めてくれ。流さないようにしてくれ！

住民は６月はじめから再三、行政に訴え続けた。三原市が水質検査、住民の直談判でやっと業者に「産廃物の搬入と覆土の停止」指導をした。指導を無視して搬入を続けたことに、「警告指導」を行った。三原市議会は臨時議会を開いて「汚染水対策と控訴断念」の意見書を採決した。しかし業者は、検査用の排水パイプを大量の水で洗浄し、県も「浸透水は基準値内だ」として再操業を認めたのだ。住民の実施した日名内川の水質検査では、基準値を超えた汚染水のまま、異臭や濁りはさらに増えているのに、である。「だれ一人取り残さない」行政を約束した湯崎県知事、広島県行政に、またしても見捨てられた。

ついにこの酷暑もあり、水田は地割れを起こし、稲穂は細く枯れ始めている。この事態の中、市民の一人が 8 月 2 日、急遽、三原市内の農業者に「どびん水」（救援水）を呼びかけた。8月3日、猛暑の中、駆け付けたのは軽トラックにポンプと貯水タンクを積んだ市内の農業者たちである。その数 33 台。２㎞先の新池からピストン輸送で干上がった水田に水を何度も運んだ。農業経験のない市民も車いっぱいにポリタンクを積んで駆けつけてくれた。「雀の涙、焼け石に水」と笑う者がいるだろう。しかし、「どびん水」は、水田を湿らし、住民の心を励ました。長引く干ばつで、駆け付けてくれた農業者自身の水田も干上がっている中での取り組みだった。沼田川水源で生活する市民が、本郷処分場の問題を自らの問題として受け止め行動してくれた。

「自助・共助・公助」というが、本来、行政は憲法に保障された住民の権利、基本的人権を保障するために存在する。日名内でくらす住民の、安心して平穏な生活を送る権利「平穏生活権」が侵害されている。井戸の近くまで、汚染排水の泡が流れてきている。安心して飲むことができない井戸水。住民の浄水享受権が侵害されている。安心して飲める水が保障される権利「浄水享受権」も基本的人権の一つである。その権利を保障する責任を行政は果たさなくてはならない。

私たち住民は、「自助・共助」、不断の努力を続けてきた。43000 名の産廃建設反対の署名、三原市、竹原市市議会の意見書、これらの民意、行政意見を無視して許可した広島県行政に問う。「いのち、水、くらし」をだれが守るのか。

原告団は、行政訴訟控訴審、第２次仮処分申請、本裁判へと闘いを進める。勝利するまで闘い続ける。「いのち・くらし・水」を守る！　2023.8.8

6.24 シンポジウム報告

『はだしのゲン』が開けたパンドラの箱

『はだしのゲン』削除だけではない～これでいいのか！？ 広島の平和教育

岸 直人（教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま）

1．はじめに

私たちは２月にひろしま平和ノート（以下、平和ノート）の教材『はだしのゲン』が削除されて以来、検証及び改訂会議議事録、新旧ひろしま平和ノート及び新旧指導資料を比較分析した結果、次のことが分かった。

（1）被爆の実相を伝える教材や核兵器廃絶を求める被爆者・市民の強い願いが大幅に削除されたこと。

（2）アメリカの原爆投下責任を問わない教材が大きく取り上げられたこと。

（3）核兵器廃絶を求める学習から核抑止論を容認する学習へと変わったこと。

（4）日本の植民地支配やアジアへの侵略戦争や加害の事実に触れようとしていないこと。

つまり、平和ノートから教材『はだしのゲン』が削除されたという問題だけではなく、広島市教委の平和教育自体が大きく変質した問題が見えてきたのだ。市教委が秘密裏に行ってきたパンドラの箱の中のたくらみを『はだしのゲン』が開けたのである。

本稿では、シンポジウムを踏まえ広島市教委の平和ノートの問題点を解き明かし、広島市の平和行政の変質について明らかにしていく。

2．美甘章子さんの教材『8時 15 分―ヒロシマで生きぬいて許す心』が平和教育を壊す（参考：辻隆広さん報告）

教材『8 時 15 分』は、中学 3 年で 1 ページ、高校 1 年で 7 ページと約 20 分のインタビュー動画で使用され、他の教材と比較して破格の扱いをされている。

中学 3 年の教材には被爆者である、美甘さんのお父さんの言葉「原爆を落とした米国人を恨むな。平和の懸け橋になれ。」を市教委はタイトルにした。また教材のお父さんの言葉「アメリカが悪いのではなく戦争が悪い。」「人間の弱さが戦争につながる。」「どちらが悪いという考えは全く意味がない。」「原爆を落とした米国人を恨むな。」には大きな違和感がある。なぜなら原爆投下は非戦闘員に対する無差別大量殺戮で、国際法違反だということをアメリカ政府は一切認めず謝罪もしていないのに、子どもたちに授業で「原爆を落としたアメリカを許そう」と学ばせることは、とても容認できることではないからだ。

『はだしのゲン』全巻や資料を展示

この本には「戦争はどの国もひどいことをしていた。日本も例外ではない。」と書いてあるが、平和ノートでは日本の植民地支配やアジアへの侵略戦争や加害の事実に一切触れていない。また、「アメリカが悪いのではなく戦争が悪い」とも書いてあるが、平和ノートではアメリカが戦争でしたことや戦争の原因や仕組みについて学ぶようになっていない。さらに「人間の弱さが戦争につながる」として戦争の原因を個人の心の問題ととらえているので、国家の起こす戦争が最大の人権侵害であり、戦争が非人道的な被害を生みだすことを考えさせる教材にはならない。個人と個人の関係を調整して戦争を止めたり、戦後の加害者と被害者の関係を整理したりする考え方は平和教育にはなじまない。このような考え方は日本の戦争責任もアメリカの原爆投下責任も考えさせない「平和教育」に子どもを導いてしまう。

また、新平和ノートになり、アメリカの原爆に関する記述がさらに減少していることがわかった。中学３年からアメリカの水爆実験により放射能被害を受けた第五福竜丸が削除され、旧高校１年から原爆開発の「マンハッタン計画」もなくなり、旧版中学２年から「GHQ のプレスコード」の記述もなくなった。

平和ノートから原爆を投下したアメリカについて考えさせず、被爆者がアメリカを「許す」ことでヒロシマはアメリカと「和解」し平和を築いていく、そういう「平和教育」が新しい平和ノートで作られていくようである。国家の戦争責任を追及し、戦争は最大の人権侵害だと訴えるゲンが削除され、戦争の実相を学ばず、日本とアメリカの戦争責任を追及せず、「許す」心で「和解」する考え方をヒロシマの子どもたちに押し付ける教育は子どもたちの未来に責任を持つ教育とは言えない。

3．『はだしのゲン』の削除問題と日米関係

（参考：高橋博子さん報告）

歴史研究では戦争犯罪を行った当事者がなぜそのようなことをしたのかを分析するが、美甘さんの論理の中では相手への「同情」や「理解」や「共感」が「相手を許す」ことにつながっている。原爆を投下したティベッツに対しても、ユダヤ人を大量虐殺したルドルフ・ヘスに対しても同じように「共感」し「許す」ことができるとの論理展開をしている。責任を問わないまま「許す」ということは「謝罪を求めない」ということになる。市教委は美甘教材により「許す」平和教育を導入したが、実は

2016 年のオバマ大統領の広島訪問のときに、広島の有識者ぐるみですでに「アメリカに謝罪を求めない」という動きが広がっていた。

平和ノートの検証委員会と改訂委員会として改訂に深くかかわった水本和実・広島平和研究所所長（当時）は、2016 年 5 月 11 日の新聞記事で「広島市民は冷静な対応をした方が建設的な結果を得られるのではないか。」というコメントを出した。そして、今年の 3 月 28 日の日本国際問題研究所のレポートで、『はだしのゲン』削除問題にかかわる市民運動を「断罪型」として批判して、これからの市民運動は以下のような「包括受入型」が望ましいとした。

・批判より成果をアピールすること。
・要求を突きつけるより、対話のチャンネルをどう維持するかに主眼をもつこと。
・厳しい現実を告発するより、市民に広がる前向きな価値観をアピールすること。
・被爆体験継承の危機に警鐘を鳴らすのではなく、すでに実施している多様な取り組みを紹介すること。など。

この水本氏ら有識者によるオバマ来広のときのような動きの延長線上に、今回の広島市教委の平和ノート改変や広島市の平和行政の変質の問題があると私たちは推測している。

4．『はだしのゲン』削除の背景にある政治的な動き

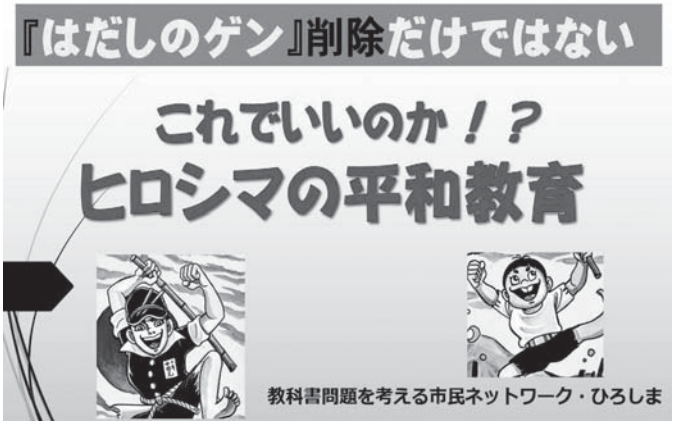
（参考：難波健治さん報告）

2016 年 5 月にオバマ大統領が広島の平和公園に来た第一声が「71 年前の雲一つない朝、死が空から落ちてきた」だった。「落ちた」は自然現象の意味だ。「落とした」側のトップがこの表現を使ったスピーチは「落とした」アメリカ政府の責任を認めない政治的な衝撃的な言い回しだった。

その 1 年くらい前、広島で平和行政、平和研究、平和教育を大きく変えようという動きが始まっていいた。同時期、広島市立大学広島平和研究所において、被爆者に寄り添い核廃絶に向けた研究者が次々と雇止めをされ広島を離れていったのだ。入れ替わりに防衛省や外務省の研究者が入ってきたので、事情を知る人は「平和研究所は防衛研究所になったのではないか」との批判をした。

最近も平和行政が大きく変わってきている。２年前には特異な思想を持つ保守系の議員提案で平和推進条例が作られた。この条例は広島市の他の部署の定める平和の考え方に比べてあまりに定義が狭く、平和式典で市民に対して「静かにする」ことや市の平和行政に協力することを求める内容だった。本来は市民による平和活動の盛んな市を作ることが市の役目のはずだから、平和推進条例は本末転倒している。

また 2023 年度中には広島市立大学広島平和研究所と広島大学平和センターとが連携する協定を結び、広島平和文化センターとも一つになって何かをしようとする動きが始まり、広島の平和行政の動きをどこかに引っ張っていこうとしているように見える。これまで述べた不可解な動きとつながりのある非常に注視しておくべき動きである。



5．おわりに

５月の G7サミットの際、岸田首相は「広島ビジョン」で核抑止論を容認した。広島出身の首相が広島で核抑止政策を容認したことは、世界の市民から被爆者や広島市民が核抑止政策を認めたという状況設定にされ得る。これまで被爆者は被爆体験を発信することで核廃絶を世界に訴えてきた。「ヒロシマが核兵器を容認した」ということは核兵器廃絶の根拠を世界が失うということにもなる。この出来事と平和ノートが「核兵器廃絶を考える学習から核抑止論を容認する学習へと変わった」ことは政府の核抑止政策を広島市が受け入れた結果だといえる。

さらに６月には広島市長と駐日米大使との間で「パールハーバー国立記念公園と広島市平和記念公園による姉妹公園協定書」が締結された。広島市は姉妹協定をＧ７サミットの「広島ビジョン」実現の第一歩だと説明され得る。しかし、この協定は、始まりに真珠湾攻撃があったから広島に原爆が落ちた、という米国の描いたストーリーを受け入れ、アメリカによる原爆の使用とアメリカの核政策を広島が正当化したという意味をもつものだ。米国はかつての原爆投下の責任をこの協定により、広島と「和解」したというメッセージを世界に出すために、広島を広告塔として利用しようとしているのである。日本もまた、アメリカと「和解」したというメッセージを出し、晴れて日米がお互いに戦争責任を問わないという約束をしたことになる。そしてこの協定締結の方向は平和ノートの変質の方向と一致しているのである。

平和ノートから教材『はだしのゲン』が削除されたことによって開いたパンドラの箱の中から、このような問題が次から次に飛び出し、さらに次々と現実化しているともいえる。

では、だれがどのような理由で教材『はだしのゲン』などを削除し『8 時 15 分』を採用することを決め、核抑止論を容認する平和ノートに改変したのか。少なくとも議事録には現場の教員がこのような改変を求めた記録はなく、市教委は市教委が決裁したとしか言わない。マスメディアは決定過程が不透明だと報道し、多くの市民は市教委に説明を求めているのだからその説明責任を市教委が果たさない限りゲンが開けたパンドラの箱は閉まらないのである。

憲法を活かそう！ストップ改憲！8.6 新聞意見広告 今年も 掲載 しました

ご参加、ご協力、ありがとうございました！ **朝日・中国新聞に**

あらゆる戦争、抑圧、差別を受忍しない道を共に歩もう

第九条の会ヒロシマ 31 回目の 8.6 新聞意見広告を掲載することが出来ました。4,500 を上回る個人・団体（8.28 現在、匿名含）のご賛同を頂き、皆さまのご支援、呼びかけに、世話人一同、心より感謝申し上げます。

大軍拡・大増税の岸田政権に NO を突きつけるため朝日新聞朝刊全国全 15 段をカラー、中国新聞は残念ながらモノクロで掲載しました。この会報に制作した世話人の思いを集め、カラー版ポスターを同封しています。ご感想やご意見をお寄せ頂ければ幸いです。（藤井純子）

メッセージ… 9 条改憲や軍拡だけでなく、人権・差別、農・環境問題など様々な課題で 500 を超えるメッセージが寄せられました。根底でつながり、憲法 3 原則（基本的人権尊重、主権在民、平和主義）を活かし解決しようということを、皆さんと共有したいと思います。

意思表示の場として　　島村眞知子

今、私たちの生死に関する重要な事柄が国会を経ず、閣議決定だけで難なく決められています。そんな政府に「否」という意見を名前掲載で新聞に意思表示できる場を提示することは今の世界情勢の中で重要なことだと感じています。7 月は重要な制作・編集会議が重なるので体調を整え、集中出来るようにして臨みます。8 月 6 日の朝、紙面を見て「今年も掲載できた」という達成感で肩の荷が降ります。一方いくら慎重に注意し何度確認しても見落しがあることに大変申し訳ない気持ちと腑甲斐無い思いが交差してしまうのが正直なところです。でも声をあげる場はなくしてはいけないですよね。

全国の皆さんとともに怒りを込めて　　西浦紘子（会計）

広島では 5 月に G7 広島サミットが開催されました。岸田文雄総理大臣は広島選出であることから核廃絶を明言するかと期待したのですが、やはり核の抑止力を肯定しました。世界の人はヒロシマが核を肯定したと思うに違いありません。私たちは怒り心頭、意見広告にその気持ちをぶっつけました。イラストはその気持ちを反映して激しいものになりました。これは絶対カラーで出そうと意気込みました。そして皆さんの賛同で朝日新聞にはカラーで出すことができました。ただ中国新聞は力およばず白黒での掲載となりました。しかしそれはそれで力強い紙面となりました。掲載後、賛同の声とカンパを寄せてくださった方々がおられたこと、賛同金の不足を補うように送金してくださった方々がおられたことに限りない喜びを感じました。本当にありがとうございました

簡単に理解しないために　石岡真由海（グラフィックデザイナ -）

今回私は原爆被害の数字の記録を、簡単には読み取れず、判断できず、わかりにくく、見えづらく表現しました。暗い赤や黄色や黒の炎にあえて重ねたえんじ色の数字の記録、沈むような原爆ドーム、まるでたくさんの人が沈んでいった川のような青の上に様々な色文字で乗せた賛同人からのメッセージ、それらが具体的な、でも簡単ではない恐怖やむごたらしさを伝えてくれると思いました。それを受け取る読者がいてくれるのではないかと制作しました。読者モニターの自由意見には、読みづらい、数字で原爆の実相を知って驚いた、怖かった、などの混沌と恐怖と重さを感じてくださったものが多数あり、ある程度伝えることができたように思いました。はだしのゲンの作者中沢啓治さんは、受け取る子どもたちを信じて怖く酷いものをそのまま描くことを徹底し、かつて私もそれを受け取った一人の子どもでした。「夏休みなので小学生でも読めるようルビを振ってほしい」というご意見もいただき、至らなかったことは大きな反省点です。また、 朝日新聞版に誤字がありお詫びして訂正します。

（誤）広島市 HP「原爆被災の概要」
（正）広島市 HP「原爆被害の概要」

憲法との出会いと私　　大道美代子

憲法というと私は、小学校の社会科の授業で初めて日本国憲法を学び、このように素晴らしいものがあるのかと、感動したことを思い出します。ほどなく自衛隊の存在やパレスチナでの戦争を知り、東西冷戦の時代、表面上世界平和が保たれていると信じていたにすぎないと気づきましたが、今でも鮮やかな記憶です。日本の加害について知るのは、もっと後のことです。冷戦後、アフガニスタン・湾岸戦争・旧ユーゴスラビア紛争・ウクライナと挙げきれないほどの争いが、平和に過ごしている自分と同時代に起こりました。そういうことに慣れてしまいそうになります。他国のことではなく、日本でも憲法・平和・人権がないがしろにされ、世論調査で軍拡路線への支持が、半数を超えるという現実が起こっています。

私は、第九条の会ヒロシマの新聞広告に並ぶたくさんの名前を見て、多くの人の寄付による活動だと興味を持ちました。お手伝いするようになって一年がたとうとしています。戦争反対を言うと、今でも子どものときに観た「はだしのゲン」のお父さんの姿が思い浮かびます。戦争反対の活動を、少しつづ考え、実行していきたいと思っています。

会 計 中 間 報 告　　（2023 年 8 月 22 日　　会計 :西浦紘子）

収入の部	支出の部	
賛同金＋カンパ　10,374,360 円	広告料、紙面制作、チラシ印刷、発送料、カラー版印刷、ハガキ他	8.6 合計　11,174,552 円

▼ 不足額　800,192 円は本会計（会費）から補填します。

お名前の掲載…　毎年掲載する名前の字や読み、掲載可･不可、住所など名簿整理を行います。今年も個票とリストと、会報送付用の名簿と照らし合わせ、心強い助っ人と世話人でチェックし、掲載名簿をつくり、何度も校正しました。それでもお名前を掲載できなかったり字や掲載の仕方を間違ったり、本当に申し訳なく、ただただお詫び申し上げます。

▼事務局のミスで掲載できなかった方々（敬称略）

笠原美恵子･久幸、広畑紀子、西田信子、松井千里。溝口浩史・溝口藍

▼掲載の間違い　　村上美紀子・史江　→　村上史江　村上美紀子

▼締切以後の賛同団体・個人、再カンパの方々

宗教と平和を考える市川宗教者の会　越谷九条の会
丘珠みなみ伏古北９条の会　呉 YWCA・９条カフェ
ジーン　イングリス　篠原文昭　加藤正子　対馬朝子
平賀伸一　黒瀬真一郎　小花宰　村田民雄　笹壁澄子
山田禮正　豊永恵三郎　牧山員子　西野肇　恩地いづみ
石川幸枝　紺田亮・紺田かおり　白幡和世　清水雅子
栗原君子　岡久郁子　當真健一・當真英子　伊藤正子
沖本郁子　大林トヨ子　末光和子　梶原広継・梶原紀代
斎藤義　皆川珂奈江　小出和佳　榎本光子　村上和子
土井律紀・土井尚美　大知輝夫・大知純子　外谷悦夫
実国義範　岡西清隆　西岡由紀夫　村上和子　沢田正
大知輝夫・純子　平岡典道・雅子　小峯和子・松永裕子
小倉小百子　草間隆夫　石山功　深田貨津子　松本学
鎌田清　幸田正章　羽立賢二　阿部千春　鎌田勝吉
西浦昭英　ホソヤマシゲル　工藤和子　太刀川登　朝桐慶子
丹那誠子　山田誠治　小川ひろ　臼井泉　佐藤徹
小嶋睦雄　小川和美・小川翔太　稲塚博子　三森進
奥村弘　大月純子　中須賀裕幸　入江洋子　村上淑子
松尾保代　イノウエオサム　岩下恭子　盛武真津子
渡邊みゆき　工藤幹雄　矢﨑美佳子　淺井栄子　笠井桃子
中山順子　島田啓子　北出和平　加知俊允　佐野京子
目崎幸治　中村芳子　髙橋亨　山住美津子　遠山章朗

4404+8+98+6=4516（9 月 4 日現在）

購読者からのメッセージ

今年の 8.6 新聞意見広告も、購読されている 8 割以上の方々がみてくださった。原爆投下についてだけではなく、憲法、9 条についてもたくさん感想が書かれている。また、毎年この意見広告を見ている、楽しみにしているという人が増えたのも、続けてきたからだろうと思うと嬉しい。あらためて皆さんに感謝したい!!

29 歳以下----------

・今日は 8 月 6 日 (広島に原爆が落とされた日) なので，この広告が平和，特に憲法 9 条の尊重を主張するものだということが即座に理解できた．何が書かれているか思わず読み込んだ．
・毎年この日に見る広告です。戦争が絶えない今だからこそ考え続ける必要があると思います。
・日本国憲法第九条に関しては関心はある。もちろん戦争は反対。核も反対。九条によって守られていることも分かるが、勉強不足の事が多く自分の意見がどうなのか決められない
・怖い文章だが、事実なのできちんと向き合わないとと思った。
・たくさんの人が平和のために正しい政治・行政の在り方を考え、求めている事がわかった。
・第九条の会ヒロシマの「憲法九条を護り、核兵器禁止条約の批准と平和を求め続ける」活動に心より賛同します。
・人類に対する脅威の原爆をなくすため、出来ることに参加していかねばならないと思った。
・戦争の悲惨さをもっと世界に知らしめるべき
・「第九条の会ヒロシマ」は毎年、8 月 6 日にこの広告が載るので知っていました。絶対に忘れてはならない日です。

30 歳代----------

・広島の原爆の悲劇を忘れず、後世に伝えていかなければならないと実感致した。私も学生時代にはだしのゲンを読んだのですが､「はだしのゲンを教室に戻せ！」には大いに共感した。
・新聞購読者全ての人に対するメッセージであり、一人一人の意見を大切に伝えてくれている。
・小さく書かれた個人、団体の思いがこの広告を作っていることに重さを感じる。絶対に忘れてはいけない日、絶対に忘れてはいけない事を語り継いでいかなくてはと改めて思った。
・ものすごくインパクトのある広告で驚いた。改めて原爆の惨さを感じさせられる。寄付者全員の名前を掲載することも、一人一人の力が集まっているという印象がより伝わる。
・毎年この日この広告を見ることで改めて戦争について考え、先の大戦を忘れないように強く思う。

40 歳代----------

・数値で、原爆の衝撃を頭でだけでなく、肌感覚として感じることができた。当時そこにいた方々を想い、改めて人類に不要なものだと強く思い、子どもと話すきっかけになった。良い広告を有難うございます。
・想像をはるかに越えた誰も経験してなかったら想像できないほどの恐ろしい威力を持った爆弾を落とされたんだなと思いました。大阪でも子どもの時、原爆や平和についてしっかり勉強させられたが、小学校の息子はまったく教えられていない。戦争ではなく今は阪神大震災の勉強です。無知は怖い。
・憲法第九条に関して子どもたちとも議論する。親世代は幼い頃、祖父母から戦争を経験した話を聞いていたので、子どもたちの未来が平和であって欲しいと願っていただろう。
・戦争の放棄が反故にされる日が近づいている気がします。
・何も出来ていないが動き出さなければと思った。
・絶対に忘れてはいけない、未来に活かさなければならない出来事を数字で見せたいい広告でした。
・被爆者の高齢化が進み亡くなってしまうことを考えると、継承し、日本のみならず世界中に声をあげることは責務だと思う。
・広島・長崎の原爆のことを知らない無関心の人が増えている。史実、犠牲者の声をどんどん発信して二度と誤ちを繰り返さないよう、若者に広げてほしい。
・非常に難しい政治的課題を明確に表現した意見広告として、価値あるものだと思う。新聞読者としても考えさせられた。

50 歳代----------

・核爆弾の恐ろしさを切に感じる。ロシアはウクライナ侵攻で核保有国が使用をちらつかせ脅している現実がある。世界からの核廃絶のためにどうしたらいいのか真剣に考えた。
・原爆投下は、米バイデン大統領の言うような「物語ではない」。人間の愚かな事実を伝え風化させては絶対にならない。

・負けを認めなかったために広島・長崎・沖縄が酷い目に遭ってしまった。被害者、遺族の苦しみは終わらない。戦争を終わらせるため他に方法はなかったのか。
・上半分の絵は戦争、爆弾とその時刻を一目でわかるように表現されていると思う。下半分に小さくびっしりと書かれた名前がそれぞれの人の思いなのだと思った。
・夏休み中で小学生も新聞を読むかと思います。できれば、漢字にフリガナをふり、小学生が読みたくなるような広告としていただけばよいかと思います。応援しています。
・意見広告を読んで想像できないような苦しさを感じた。一方でウクライナ紛争もあるし、中国が軍備を増強していることも考えると、日本にも軍事力が必要と思うし、非常に難しい問題だ。
・妙に時計の針と、色使い、数字が妙に心に引っ掛かり、全て食い入るように読んだ。0が多いので、一十百千万と数えた。考えさせられた。訴え続け、考え続けることが大切だと思う。
・日本が戦争ができる国になりそうで心配だ。自衛隊員になりたい人も減り徴兵制になるのではないか。日本が戦争をしない国だということを再認識したい。
・核使用は許されないが、自国を守るために核保有は許されると思う。
・左寄りの人も右寄りの人も戦争反対の人は多いと思うので、戦争反対は超党派で訴えるべきだと思う。
・ぼんやりしていると不穏な方向に向かっていく。賛同するだけでなく自分もアクションを起こす必要性を感じる。
・憲法第九条を活かし、戦争・抑圧・差別を受認しない道をともに歩こうという思いに共感する。

60歳以上----------

・「核」の使用は落とされた国だけでなく、全世界に悪影響を及ぼす。世界が協力しグローバルに物事を考えるべきだ。
・新聞をめくり目に飛び込んできた原爆投下の時計の針、小さな字は何だろう？と目を凝らすと寄付者の名前。戦争をしてはいけないという思いが集まっている。若い人にも見てもらいたい。
・寄付者 4400 余の個人と団体に支えられているようだ。こんな主張の仕方もあるんだなと主旨がよく理解できた。
・亡き父は語れないほどの辛い悲惨な戦争体験で、死ぬ間際、夢をみて大声で辛く苦しかったことを思いを叫んだ。しかし原爆資料館で子どもが「怖がる」ので見せないというのは疑問だ。
・戦争には反対だが防衛力を無くせば、武力による自国への侵略、経済的な侵略にも防衛出来ないのではないかと危惧する。
・毎年『戦争の放棄』を謳った「日本国憲法第九条」を全面広告で掲載する勇気に敬意を払いたい。
・平和主義は憲法三本柱の一つ。広島に原爆が落とされた日に戦争を知らない世代の人たちの考えるきっかけとなると思う。

会員さん　8.6 新聞意見広告 23 に賛同してくださった皆さんからのメッセージ

1月 ----------

坂田光永・章子　「平和」が「戦争」を意味する日も近い
三谷雅子　とことん外交努力に賛成です。経済封鎖されたら食糧危機で、日本はそれだけで終わりですよね。
戸野寿美江　黙っていることは同意と同じ、声を上げて行きたい。
中村光一　会報感謝。読んだ後１年分をまとめて東京ボランティア市民活動センター図書室に寄贈しています。
戸野寿美江　8.6 意見広告 2022 は具体的な文言で大変良かったです。皆さんに理解していただけると思います。
米光裕子　野党は共闘を。
富矢伸史　広島には遠くて行けませんが「活動」を応援します。
中元寺俊幸　大軍拡、大増税粉砕、真の野党は１つになろう！
松浦賢治　なし崩しの改憲、既成事実化に反対！！
奥下厚子　国会の了承もなく、首相は米国に防衛費増額を言うのか、税金は国民のものである。
小林義朗　しなやかで、したたかにたたかっていきましょう。
村田暁美　日々テレビで軍拡専門家が話すので、不安になります。九条は守らねばなりません。
牧野正博　こういう時代だからこそ９条の重みが益々増します。
髙岡純子　今、全世界が武器産業に牛耳られようとしている。９条をもつ日本は武器を持たないことを武器に、武器のない世界を提言する国であってほしいが。
春藤かづ子　会報有難うございます。いつも読んでいます。
中村公一　一人一人がハガキで国会議員に第九条改定反対。
幸京子　大軍拡絶対反対！
林洋和・民子　継続は命
渡辺吉男　ロシアがウクライナ侵攻している今こそ９条。

2月 ----------

前野貞子　「始まった戦争はとことん話し合いで」同感です。
手塚文栄　せめて会費で平和を願う主婦が１人いることを
山今彰　敵基地攻撃力は先制攻撃に他なりません。今や再び戦前です。何としても阻止を！
関西共同行動　憲法を活かそう！ストップ改憲
岸本真理子　ともに　がんばる！
大西五己　日本国憲法は、政治・外交の基本法
藤井孟　いよいよ、九条の重要な時が来ました。難しくても中国と話し合いを続けて、USA も同伴しましょう。

3月 ----------

三井富士夫　九条は派兵拒否権、徴兵拒否権、改憲阻止
松田正久　核廃絶は待ったなしの最優先・緊急課題だ！
下末かよ子　戦争しない国を子どもたちに手渡しましょう！
牛島忠夫　日本に来る各国の首相、大統領に広島を訪れるよう働きかけるよう、市長に要望しよう。
安田佳子　疎開先で空腹のためほおづきを食べた戦中派。
高田由美　広島湾での「日米軍事演習」は犯罪だ。強く抗議。
あっちゃん　8.6 意見広告の切抜きをずっと大切に持っています。
安岡千絵里・尾木原唯史・稜　生活が苦しいですがわずかでも賛同金を

4月 ----------

深澤睦子　私たちを守ってきた九条。今度は私たちが守ろう！
赤間至・赤間セツコ　受け継いで憲法護る友の志！
太田稔　戦争反対！！
平田里文・悦子　軍隊憲法違反、外交で。不殺生きとし生けるものの会
國貞守男　No More War!　We Love Peace!
吉川徹忍　統一教会・国で侵害される信教の自由・政教分離の危機。愛国心に引き込む道徳教科。「政治と宗教」を正しく教え憲法９条と個人の尊厳を。
仲宗根将　連帯
豊永雅雄　8.6 新聞意見広告、せめてもの抗議！
杉原豊子・杉原直幸　税金で地球をいためつけないで下さい。

鈴木聖幸　軍事力増強は悪循環の始まり。
平和貢献こそ日本の安全保障。
藤井石根　軍拡で平和にはなりません。九条を守りましょう！
後路明成　平和憲法を守り戦争のない世界を。
天野忠雄・シマ子　憲法を生かす平和外交を　軍拡よりも暮らしを
井原俊博　憲法九条は日本の誇り
井原美代子　憲法九条は平和だけでなく人類を守る
三上弘志・西矢恵子　ウクライナに乗じた大軍拡に反対しましょう！
江崎勝之　ウクライナに平和を！ 世界に日本国憲法の願いを！
山本きよみ　戦争は嫌　仲良くしよう
浅川保　９条破壊を許さない
平田弘子　戦争は殺人行為です。話し合って解決すべきです。
池田洋子　季節を感じながら散歩できるのは、今。平和だからです。孫たちの未来にも続きますように。
森繁美　安保は戦争の準備　助け合いは平和の要
栗城理一　プーチンが核兵器を使おうとしている今こそ、日本は核禁条約を批准せよ！
吉田哲四郎　自民、公明、国民、参政を退場させなければ憲法無視の戦争が始まる。
原田優子　Never give up！
脇千明　平和が一番
内海博文・内海栄子　No War No 岸田　ストップ改憲！
片岡英夫　９条精神を広め地球上の全ての武器を無くしたい
押部禎一　喝
鈴木康紀　軍拡・改憲・原発稼働反対、平和と環境守ろうぜ
高山徹　戦争は絶対いやだ。憲法を活かして平和を築こう。
天野正子　しんどいけど、目をそらさない、耳をふさがない、口を閉ざさないでいたい。未来のために…。
井上正弘　やっと生まれた双子の孫娘のためにも平和を！
巽裕子・巽良輔・八島亜弥　殺すな！ 殺されるな！ 殺させるな！
岩下健一　今こそ日本国憲法前文や第９条の考えを生かすとき
松下智子・松下良博　九条は日本の宝　＆平和は日本の宝
松本聡　守りましょう 活かしましょう平和憲法！ 許すな改悪！
御手洗珠穂　平和を守るために軍隊や武器はいらない！！
戦争で得られるものは何もありません！！
赤松竜・江口直美　故・森瀧市郎先生に学んだ者として、毎年の森瀧春子さんの取組みに感銘を続けています！
ムラカミ・マサヒロ　一人一人を大切にする環境づくりこそ！
松浦恵子　子どもたちに平和な未来を
北阪英一　日本史上最高最良の平和、国民の為のメッセージ
鳥家治彦　９条を活かそう
小松克己・小松美城子　平和を人任せにしない。
田代周司　国連にもっと力を！
藤井郁子　未来の子どもたちへ
貧困・格差・戦争ではなく、平等・共生・平和を
神田久　人を殺す兵器はいらない。
三井富士夫　９条を改憲すれば徴兵に
新藤知樹　「平和」とは、安心して眠れること！
中山誠一　先制攻撃はもとより、専守防衛も憲法は許していない！
八幡博己　ミサイルで市民の命は守れない！平和外交こそ命守る！
清水正人　過去を隠すのは戦争の準備
澁川洋治　すべての人が例外なく人として生きられる社会を
城山大賢　非武装　絶対平和
三田村道子　私は 1944 年生まれですが空襲もなく過ごし戦後の配給が唯一の戦争体験。戦争は終わっても影響は残る。
伊藤元久・伊藤匡輝　閣議決定は憲法違反！
正富久子　警戒しよう　戦前はもう始まっています！
山今彰　「敵基地攻撃能力」は、侵略戦争を始めるための能力、日本国憲法第９条に違反する。
安田恭子　軍拡、改憲。反対です。
石山江美子・石山晋　粘り強い外交努力で平和を。
中村寛志　「非戦」でなければ意味がない。
脇義重　イラク戦争反対の時は白のリボン肩に付けて意見表示しました。戦争継続させるＧ７に反対の意思を
鈴木敬二　日本国憲法第９条を守ろう！
清水雅彦　政府は「反撃能力」が必要と言いますが、「安保３文書」では攻撃対象を「日本の領域」としており敵基地に限定していません。これは全面戦争論であり明確に９条違反です。
吉田邦子・吉田信夫・千葉和子　北見では３年ぶりに５月３日「日本国憲法を読む」集会が開催できる。
梶原得三郎　戦争は人類社会における愚行の極み、最大の罪悪である。
多田正哉・惠子　新しい戦前にさせないために協力して頑張りましょう
三原憲法朗読会　今こそ『ゲン』を広めよう
島上きく　戦争をしない国であり続けることが子孫を守ることだ。
主濱学　軍備は知性、理性そして品性を奪います。
丸本和子　少しでも意志を表明したい
神原秀文　憲法を知ろう！
小林義朗　政治家の責務は、戦争への備えではなく、戦争を起こさせないことだ。政治家は軍人ではない。
武田隆雄　岸田大軍拡反対！国民に戦争を強制してはならない。
谷紀人　世界に自分が変えられないために行動しよう！
皿海達哉　大人の戦争で子どもたちを泣かせるな！
阿部良之　広大な宇宙の中では、点でしかない地球上で戦争をするなんて愚かなことだ。
佐藤純子　軍拡・増税反対
吉野典子　被爆者が声をふりしぼって語った体験を無にしては申し訳が立ちません。
福澤清和　核兵器で戦争抑止は不可能です。核は人類を破滅させます。
吉川徳子　９条を誇りに思う胸ひとつ / 徳子「文芸ひろしま」31 号より
永山良樹・京子　「新しい戦前」なんて、イヤだね！
金井英樹　軍備縮小・原発廃棄・学術自由・岸田打倒
瀬尾徹志・瀬尾知佐子　命は宝　子どもたちに平和な世界を
野村晋一　闇に９条輝く！
池田雄二　特に九条には、常に関心を持ち続けたい。
浅見洋一　核と人間は、絶対に共存できません。核兵器全廃！
吉田龍子・吉田保彦　日本は戦争しないと誓い、世界平和につながる憲法９条を守ろう！！
伊藤勝久 平和を愛する日本は三度目の核兵器使用を絶対に許さない。
樋口幸恵・樋口明日香　無関心が戦争をまねく
久保知子　戦争はイヤです！殺したくない。殺されたくない。
宮野誠司　平和のために必要なのは、ミサイルではなく話し合い。
小玉有一　原発も原爆に匹敵する核兵器です。
鈴木捷彰　がんこに平和・暮らが一番！平和憲法を未来へ引き継ごう
加藤明宏　ゼッタイ　守る！！
宮脇正和　人間の英知で核廃絶を！
山上敏秋　非戦を選ぶ　誰も殺さない　殺されない

春藤かづ子　沖縄の島々を戦場にするな。日本を戦場にするな。
佐藤龍市　平和こそ SDG s だ！！
安達幸夫・安達聖子　今は戦争をメディア・社会が止められない非常に危険な社会状況です。
浅賀きみ江　G 7 ヒロシマサミットを核なき平和サミットに！岸田首相は、核兵器禁止条約に即批准せよ！"
ヤッシー 伏見泰子　私たちの宝　憲法九条を守りましょう
羽江育子　沖縄を再び戦場にしてはなりません
安藤雅子　平和とは、争うと二度と手に入らないもの。
内山宏美　守ろう９条　Stop　war
亀山美代　少しですが 8.6 新意見広告が掲載できますように。
片柳孝夫　今こそ　活憲の時代
山本博子　軍拡ではなく、平和な暮らしを！！
別所正博　ヒロシマから核廃絶の声を上げ、大軍拡を進める岸田政権に NO を！
八幡直美　一度きりの人生　平和の中で過ごしたい
河内研一　核なき世界を
高島武雄　戦争準備はやめろ！戦うな！殺すな！
渡辺栄子　平和に生きよう！
谷井利明　今こそ、憲法を暮らしの中に活かそう！
秋保和徳　軍拡はいらない　平和な国を！！
安達葉子　非戦、脱原発、No 核　９条を守りましょう。
鈴木茂久　G 7 広島サミット反対。憲法９条を守り、あらゆる戦争に反対しよう。
斉藤弘子　非核をあきらめず運動しよう
宮本哲男・宮本純子　世界中が「９条」を必要としている！
毛利勝典　憲法は支配のための道具ではなく、心の叫びを守るもの。
花井荘輔　戦争は何も解決しない
小林將夫　憲法９条は私のイノチで、日本のタカラです。
三輪幸雄・春江　戦争へ前のめりな政権を止めなければ！
古屋敷一葉　軍拡ではなく、人々の生活を豊かにするために、税金を使ってほしい！
塩飽忠一・畑野定子　九条は死んでいない
佐藤行俊　原爆の元凶、天皇とその子孫を日本の象徴とする天皇制は廃止せよ。
平尾芳郎　平和と自由
内山新吾　勝つことよりも解決すること
柳沼吉孝　軍備とは人を殺すことを肯定すること。断じて容認しない！

5月 ----------

畑真理子　ウクライナ　新作兵器　実験場
林亨・敦子　軍事費増強でなく、平和外交・平和活動への投資を真剣に。
吉岡範子　外交で平和を築く　軍拡 NO ！
前山邦雄　戦争は絶対にダメ。子どもたちに平和のプレゼントを。
小出慶子　戦争体験者が少なくなり、武力による国防を唱える声が大きくなっている。九条を世界遺産へ働きかけを！
鈴木美香　改憲ストップ！
清水雅子・清水伸幸　私たち敵基地攻撃なんて望んでいません。
橋本あき・橋本希和　核武装やめて！
柴田正彦　平和が一番
川本正晴　原爆の惨禍を体験して、到達した日本国憲法第九条は日本の命です。
島崎ゆきこ　この地球を軍隊のない星に！絶対できます！
高田由美　呉の日新製鋼跡地への病院船駐留基地の誘致に絶対反対。軍事施設だと疑います。
結城範子　戦争絶対反対！岸田さんや　被爆者の魂が叫んでいるよ「広島出身というなかれ。」と！"
牧野正博　戦争は絶対にしない国だから軍事費を他国支援に
加藤浩道　憲法は権力をしばる基本法です。壊憲は独裁、戦争への道です。
塚原貴代美　戦後の非戦憲法を守り、平和な社会の維持を祈る。
三枝晴子　未来への大切な宝
村松泰　戦争しないなら、原発も原爆も要りません。
大西和典・佐智子　現状を深く考えることを失くしかけている。その先は惨劇。立ち止まり考えよう！
細井伸一郎　九条を活かし、世界の中心に立つ日を願う。
吉田達也　森瀧市郎さんや小倉豊文さんの著作を読んでいます。
藤川博正・藤川布子　改憲すると戦前戦中にもどってしまう！
鈴木ひろえ　私の願いは世界の平和と子どもたちの幸せ！
切明泰史　いつまでもあると思うな　平和な日本
今井公一　子どもたちに平和を残そう！
島元清子・島元智　「憲法九条は生きるための基盤」だ。故ネルソン氏言
佐藤皇太郎　専守防衛を捨てると、日本は驚くほど危険な国になります。敵基地を攻撃してはなりません。
出口康夫　世界の誇れる平和憲法をこれからも守ろう
高桑次郎　軍備では国民を守れない
谷代久惠　政治家が守るべき憲法。無謀な政府を憲法で縛ろう。
緒方芳松　若者よ！今こそ９条を守る時だ
テッチャン　戦後生まれの政治家は、勇ましいことを言う！
仲誠一・仲陽子　私たちは人を殺めるために生まれて来たのではない
井上聖文・井上由美子　武器で平和は創れない。外交・話し合いで平和を創ろう！
古澤望　軍隊なくし、教育・福祉・医療にお金をまわしたコスタリカに学ぼう！
大野富美子　武器より生活
武田悦子　男の人は戦いをやめられないのでしょうか？
甲斐高之　これからも子どもたちに笑顔を！
桜井邦彦　今必要なのは「九条の実現」です。
齊藤久子　９条守って核なき世界を
館和夫　地球をこわすな、いのちをはぐくめ！
湯浅伸弘　青年よ銃を取るな
五十嵐唯子　よい未来は子どもたちが造る。子どもや未来の為に今大人たちはその礎を造らねばならない。
一丸雅和　寝ていても、起きていても、私たちは憲法に守られて生きています。
菅原鉄也・菅原和子　核廃絶に向かって頑張ろう。
武尾正信　今こそ平和憲法の出番！
大津留求　人間と核は共存できない。
吉村りよみ　2023 年は戦争への分岐点だと思います。子どもたちのために抵抗します。
渡辺澄江　私は昭和 20 年 8 月 6 日生まれ。ヒロシマの反省の元に続けてきた平和を守り続けたい。
兼崎正英　９条で戦力は持たないと決めたのだから、攻められたら降参するしかないが、その後どうするか。昨日の敵と安保条約でも結ぶか。
兼崎晴美　国の宝である憲法を絶対に守る
白井操　防備は攻撃を誘い、警戒は害意を呼ぶ。ーモンテーニュ

野村光子　戦争はいらない！
池松綾子　第九条守り抜いて１人１人の笑顔
来代直美　いつまでも守っていきましょう！
寺西義廣・緒方晴斗　NO！　War
内幸美　平和的外交が戦争をとめる。
森下秀美　「私の命」奪う権利は誰にも無い。
関邦久・関八重子　ストップ改憲
倉敷乃里子　今、何かやらなければ！ 100 年後も平和がほしい。
根本准子　平和憲法のバトンを次の世代に渡したいです。
西野時比古・節子　「軍事費増大」反対！！平和憲法は政府は順守。
佐伯三枝子　いかなる戦争も悪だ。改憲阻止。
三谷雅子　核の不安のない社会に暮らしたい！
千葉知江子　勇気がいることだけど、黙らない！！
迫田章人　憲法はタカラ。九条はチカラ。
角谷照恵　憲法のすばらしさを伝えよう。
鳥取市９条の会　憲法を守る政府をつくろう
田渕英久　９条はそのままに！防衛費の増額には、NO!!
三宅正徳・りつ子　広島・長崎を忘れない！止めよう戦争
守ろう世界に誇れる平和憲法！
今野洋子　ダメなものはダメです。あきらめんよ～。
日笠修宏　1945.8.6 原爆を広島市に落としたのは米軍であることを忘れない。長崎・ビキニも米国。
山田伸子　平和な空をいつまでも、ストップ改憲！
小林正典　戦争放棄、戦力不保持、国の交戦権否定で国際平和希求の憲法９条はくらしの命。
相田博　電力労組は組合に戻れ。
中村幸司・訓子・周平・有作　「核抑止力」「安保」という名の軍事同盟から抜け出る勇気「憲法第９条」
辻村玲子　軍事大国をめざす岸田政権に No を！平和憲法を守り人権を主張しよう。
松田ふみ代　私は誰も殺したくない、誰からも殺されたくない。
オゴセテツオ・タケコ　軍拡に走って、生活の破壊とアジアに緊張をもたらすのではなく、憲法の精神を活かした平和外交に徹して、世界平和に貢献すべし
奥下厚子　九条を外交に、この強さを本気で使って欲しい。
何より強いカードとして、人々のために。
譜久原由香　軍拡より貧困や格差をなくす政策を求めます。
道津弘二　ヒロシマでの活動を強く応援してます。
吉田直美　「おばあちゃんは何してたの？」と言われたくない。
柴田憲一　戦争こそ最悪最大の人権侵害です。起こしたら地獄
石川まち子　軍備を持っての平和とは？ 戦争ができない国へ
阿部静子　第九条を守るのは、戦争を起こさせない一歩。
落合裕昭・正子　永遠に平和を！！
池田忠夫・和子　「新しい戦前になる」のでなく、「新しい戦前にさせない。ヒロシマを忘れまい。」
利元克己　解釈改憲許さない。
岡田知子・英樹　大軍拡でなく、平和を！
渡邊真臣・好子　あらゆる戦争準備政策反対
『はだしのゲン』を教室に戻せ！
兼為紘昭　戦争をする国にしないために、今こそ共に闘おう。
井上由美　こんな素晴らしい憲法、なくしてはダメ！
佐藤英雄　戦争はイヤだー。原爆はイヤだー。
天沼義政　戦争は問題を解決しないばかりか我々を苦しめる。
菊地愛・菊地淳一　戦争は、やってはいけないと思います。たくさんの人を殺すのは、いけないでしょう。
大野鈴子・大野一則　普通の日常を奪う戦争はイヤです。
加藤雅子　核兵器は平和を守れません
牛島忠夫　憲法９条の条文を手帳に書き写しています。
社民党広島県連合　民主主義の根幹は地方自治から　あなたの声を届けよう
有田ゆうこ・福山権二　平和をつくる一員になろう！！
平和・非暴力を共通のツールにしよう！
松浦直人　いつまで過ちを繰り返すのか？戦争も核も差別もいらない。
能仁智子　Ｇ７が広島で開催されたこの年を核廃絶への始まりに。
中島勉　これからも憲法をくらしの中に生かしていきましょう
暉峻由紀子　平和の準備を共に
岡本剛　軍事予算５年 43 兆円は物価対策や気候対策へ使って！
東浦孝次　「戦火より、平和の灯火をいつまでも」
佐谷健児・佐谷峰世・佐谷圭　今こそ９条　今だから９条
加藤聡　軍備より外交努力を！
久世明子　改憲なんてとんでもない！憲法は国民のもの
小川桂絲香　永久に戦后でありたい！！
生田美恵子　戦後がこのまま続きますように。
仲田陽一・環　やめよう軍拡、なくそう核兵器
山口哲　武器は取らない。非戦の歳月の更新を。
鵜飼礼子・鵜飼真一郎　軍拡よりもまず対話を！
福田玲三　互譲互恵の外交を！
源川正　改憲、軍備増強ではなく、平和外交を。
大橋鉄雄　何よりも平和を！
久世裕子　内面をいじられたくないです。戦争反対！
渡久山修　全ての戦争武器や装備品等の解体をせよ！生命を大切にという政府広報を守るべし！！
渡辺靖敏　「これでよいのか」と、日本が心配です。
田中信規　護憲そして非武装中立と反安保、愚直に訴え続けよう。
山本勉　核廃絶！
川端栄子　平和も自由も人権も本当に望まなかったら失ってしまう。本当の声をあげよう！
川端秀紀　先人から贈られた”平和”をそのまま未来へ
高力英夫　異なる考えの人たちとの話し合いでしか平和は来ません。
明日村希　人の命を一番に考えられる社会を
内海弘子　憲法の前文　声を出して読もう　岸田文雄さん
尾形利夫　人間の心はつながっていると信じます
髙木美栄子　みんなの力で核兵器廃絶を！！
藤井孟・桂子　岸田総理、九条を忘れないで下さい。世界のために
小田川興　「核なき平和」のバトンを未来世代に！
森本レイ子　ロシアもウクライナもやめて！世界を病ませてしまう。
羽室浩子　平和憲法は絶対に死守すべき！
世界に誇るべき憲法です。皆で守りましょう！

６月 ----------

村田暁美　九条守ろう。改憲を止めよう、
軍拡はやめて、平和を外交で守ろう！
田口雅規・田口純子　後世代のためにも、この危険な流れを止めたい。
栗岡成人　戦争を起こさぬ術を創り出し地球を守る憲法九条
平山貴典　抑止力では際限なく武器をつくり続けなければならない。
松本和美　民主主義をあきらめないぞ！
私たちは戦争の武器にはならない！

こいけけいこ　「今、生きているのは９条があるから」
四宮大二郎　大国の核からの抑止力！！
吉田耕太郎　あらゆる武器は要りません
坂本文夫・裕子　国民は戦争反対です。軍拡のための増税絶対反対
野口藤光　国際反戦闘争を作り、全世界から戦争をなくそう。
網本えり子　憲法が描く世界はヒロシマの心と同じ、じゃけえ変えちゃいけんのよ。
田尻淳　核保有国は、早く核廃絶プログラムを提示せよ！
渕上慶子　防衛費ばかり多くなるのは、戦争がおきるのではと心配です。もっと社会保障費を増やして
山崎猛　ヒロシマの心を踏みにじる広島人？岸田ソーリのG７招致を嗤い、核廃絶の願いに乖離するG7アジェンダに心底の怒りあるのみ！
竹常雄太　必要な憲法だと思います。
大村忠嗣・白倉健・日詰武雄・亀井浩人　岸田改憲を絶対止めよう！
赤間至・赤間セツコ　武器で命は守れない
高橋京子・高橋豊明　戦争反対！一人ひとりが声をあげよう！
萬宮千鶴子　世界に誇れる憲法の下で生活できる幸せを、いつまでもと、願っています。
鈴木敏男　地球環境を守るため、植物、動物、人の生存権を守るため、平和を！
加藤徹夫　軍拡と民衆の生活破壊は表裏一体
坂田光永・坂田章子　日本をアジアのコスタリカに
向井好美・向井健人　核は平和を作らない！
檜垣順子　憲法９条改悪に断固反対する。
石原清美・西山明美　憲法は人々を守る。平和の準備を市民の力で！
内坂晃・内坂弘子　皇軍による２千万人にのぼるアジア・太平洋地域の人々の犠牲者にも思いを馳せ原爆の日を迎えたい
塩野たつ子・龍男　広島から世界に発信、核兵器廃絶を！！今こそうけとめて！！私たちの願いを！！
岩﨑學　アベ政権の後遺症をすべて打ち砕こう
牧野正博　戦争はすべてを失います。敵・味方関係なく、すべての人の生命を大切に！
片岡佳美・吹野卓　戦争は人を傷つけ殺すことを正当化する。
竹本和義・涼子　「絶対悪」の「絶対廃絶」は自明！
本間正明・裕子　広島１区の有権者の皆様：岸田を落選させて！
宮成順郎　活動に対して敬意と感謝を表します。
江田吉友　軍隊は住民を守らない。軍隊が守るのは組織のみ。
村尾知恵子　日米安保条約は、日本国憲法の上におき、貧困と軍事大国日本としている。岸田政権許さない。
後藤豊子　「軍拡」ではなく、日本から九条の精神を世界へ。
有山陽子　軍拡反対！憲法を生かそう。
松下智子・松下良博　平和のためなら九条守りましょう！
瀬賀弘行　いのちあってこそ
目次ゆきこ　何よりも平和を！
上岡覚　"DO　NOT　KILL”「殺すな」これに尽きます！
森文明　戦争は絶対にしないと決めた日本！世界への約束。
幸京子　守りぬく尊い命！尊い平和！
川口重雄　戦前 77 年 (1868 ～ 1945)、戦後は１年多くなり 78 年になりました (1945 ～ 2023)。
田坂量慈・田坂千晶　日本国憲法第九条を全世界に広めよう
下末かよ子　戦争をしない国を子どもたちに！
西川隆善　今こそ声を上げよう！！
藤澤宜史　九条と共に生きる
おおたクリニック　政府は核兵器禁止条約に署名せよ！
小林知子　決して戦争をしてはならない！憲法と生命を守ろう
中村公一　憲法第９条は一字一句たりとも絶対に変えてはならない
能仁智子　核のある世界が当たり前になっている現状は嘆かわしい。
村上まり枝　今の憲法大好きです。かえたくないです。
石渡秋　憲法は私たちのたから
岩崎保則　立つも座るも寝るもよし。一人デモの集積よ。
西川幾之進　非核・非戦に心から思います。
仁田坂喬一・仁田坂百合恵　提案です。内田樹さんを招聘して九条の会員と学校の先生方に講話してもらう。
宗近弘武　非戦・非核は被爆国で平和憲法を持つ日本の使命。そのためにはまず、戦争責任の共有を！
池田金郎・池田昌栄　日本国憲法が好きなんじゃ。備中年金生活者うらじゃ末裔。
室塚崇夫　アメリカのポチでは平和を目指せない
大西五己　＃戦後が戦前にならないために
伊藤元久・伊藤匡輝　核抑止論は虚構だ
森山正博・森山聡子　核は抑止力ではない！！廃絶あるのみ！
さきたま新聞　私の私たちの国のできるささやかなこと！
小野邦英　危機！憲法改悪！活憲大合唱！
北九州がっこうユニオンうい　第九条を生かそう。憲法を活かそう。
浅見洋一・浅見広志　歴史に学び、絶対に改憲阻止、９条堅持。
坂口隆信　日本列島の「不沈空母」化に反対します。
神田葉子　平和の準備！
鈴木茂久　平和の灯びをもやしつづけよう。「新しい戦前」には、合体しない。
三井富士夫　九条を改憲すれば徴兵に！！
井形和子　戦争をさせないのが政治の仕事ですよ。
谷紀人　武器を買うための増税反対！
北阪英一　"川柳”三百万　犠牲で平和　民主政"
宮澤玲子　平和の準備を！
森本芙佐子　武器輸出は絶対ダメ！！
那須田俊夫　戦争の準備ではなく平和の行動を
小山尚吾　改憲反対！　憲法違反の敵基地攻撃！　聞く耳持たない岸田は安倍よりひどい！！
創造集団　歴程　核兵器を廃絶し、子どもたちの未来に平和な世界と青い空を！創造集団　歴程
詫間敬久　元軍国少年（敗戦小６）として「９条」は宝である。
上高田保育園子育て９条の有志の会　戦争のない世界を求めるには「対話」でしかありません。
増沢一春　第九条は残しましょう！
君島好信　日本の文化・風俗が好きという、何人も日本人として受入れるべきだ。
加藤雅子　世界中から核兵器をなくそう
御手洗文良　岸田内閣は核兵器禁止条約に調印せよ！
斎藤義夫　平和を守るため米国の兵器爆買いはやめさせたい。
兼綱寿美子・岩木久満・芳子　日本国憲法は日々の暮らしのガーディアン　再生可能エネルギーを使おう！！
立野トモ子　ひたすら、平和を願う
井上眞澄　軍拡は戦争への道。集団安全保障と平和外交推進こそ国際平和への道。
吉川好則　「新しい戦前」を許しません
東戸塚９条の会　９条改憲は許さない
和木祐一　軍拡反対　九条死守

栗城理一　ロシアが核でおどし、北朝鮮・イランが核保有してるのに、核抑止力にこだわるのはなにも見えていない。
山本暁美　核抑止力を認めない。核戦争を回避する努力を！！
豊永恵三郎　修学旅行生に憲法９条の大切さを話しています。
森保　平和憲法を壊すな！
大町宏志　多摩地区関連記事まで有難うございました。
別木由枝　目を閉じたくなる事、目をふさぎたくなる事、今、おこっている事を心に刻もう、そして一歩ふみだそう。
島根飯南　こつこつ平和を守っていく！
こつこつ平和を拡げていく！（はとぽっぽの会）
松井岩美・玲子　平和憲法九条は、世界の宝物
東一史　平和だからこそ養蜂ができます。
岡部健一　戦争しない国を維持するために憲法を守ろう。
柳谷恵津子　地球はひとつ
山根敏英　戦争がなくなる日まで「倉敷９条の会」は頑張ります。
古戸このみ　ヒロシマを忘れない、いつまでも
花ノ木清子　23 年　永久平和への祈り　広島から発進！
22 年　平和への祈り　広島から永久発進
田原尚　戦争の映像を見ると、９条の上に今の平和があると実感。
鈴木美香　敵視ではなく対話を
山本由喜枝　未来永劫　子どもたちの命を守る！
直野裕子　９条を守ろう！
岡島宏・岡島明子　平和こそが最高の少子化対策でしょ
豊田洋実　「第九条のある日本の憲法を誇りにして大切に守っていきませふ」と学んだ授業を今も忘れません。昭和 10 年代生
今田玲子　今、平和が壊されて行く恐怖を強く感じます。
９条は絶対守りたいです。
山のハム工房ゴーバル　武器をもち孫子が外国に行くことのないように！
小柴裕子　暴力や脅しは止めて、お互いを知り学んで、信頼と平和をつくりましょう！
土井澄美江　武力で平和はつくれない。戦争は国によって私やあなたが命を失い、傷つき、未来を奪われること。
伊藤道子・伊藤英敏　広島中央図書館を平和の礎に
唐井雄三　自分は何ができるか、何をすべきか考えましょう。

7月 ----------

向井好美・向井健人　核は平和をつれて来ないよ
柳つとむ　核や軍隊とは共存できない
松井さとみ＆家族　"NO　核・原発　NO　戦争
山中理恵　九条　絶対守りましょう
松本文化　軍拡絶対反対、対話外交で行きましょう。
中島雄三　生存権を侵すな。
伊藤幸エ　核兵器使用禁止！！
原田禎忠 平　穏に暮らすことのできる権利を脅かすな。
木下久美子　戦争で解決はしない。破壊と殺し合いが続くだけ。
宮川蛍　敵基地攻撃能力はいらない
國貞守男　"NO　MORE　WAR！WE　LOVE　PEACE！"
笠原美恵子・久幸・広紀子・西田信子・松井千里・溝口浩史・溝口藍　今こそ憲法を守るべきだ。二度と過ちをおこさない誓いを思い出すときだ。子や孫たちのために。
石黒康二　核兵器のない社会を現実のものにしよう！
道広廸子　唯一、人間は言葉という宝物を持つ。武器より話し合いで心を通わせる政治を！私物化しない政治を
奥田剛・みどり・悠・慧　核抑止論破綻を直視し平和の再構築を！
大森愛子　岸田政権の暴走には九条で急ブレーキ！
迫田重幸　命と笑顔が守られますように！
植山文雄　地球上の生物とともに生きていきましょう。
丹羽雅代　ニュースは読んでいます。少しつらいですが。
立石正夫　九条は絶対に守らなくてはいけない。
鈴木哲朗　平和
大江宏　Ｊアラートを鳴らさない外交を望む。メッセージを考えている間に時間が過ぎ、締め切りを越えてしまいました。
藤田浩文・由美子　現憲法は良い。ダイヤを押しつけられて嫌がる？
大谷弘子・長谷川敏子　殺傷兵器の輸出や製造は憲法違反だ。
横山新太郎　９条のこころ！
松下元　とにかく、個人、市民運動頑張りましょう。
佐藤宏樹　武器買うな　武器売るな　戦争やめる外交しろ
三島弘敬　過ちを繰り返さないぞ
谷口正光・羊子　第９条を誇らしく思う。本気で平和を守りたい。
川端善一郎　足音が聞こえます。戦争への。なんとしてでも九条実践へ。できることは何でもしよう。
船田美幸　平和の敵は中国よりもアメリカです！
吉野健二　核兵器禁止条約の批准を政府に強く要望します！
三芳英教　ウクライナを第２の被爆国にするな！！
山口久美子　私は生きたい。
古川佳子　第九条は萬人のお宝　美しい地球を護りたいよね
相原敦子・相原正　日本政府の軍拡反対！
新井保二　平和であってこそ豊かに明るく生きられる
人生は一度きりである
金川美津子・金川翔　「今は戦前」なんてまっぴらだ！
関静子　8.6 新聞意見広告 2023 を応援します。
西川啓子・根本博　あらたな戦時体制をつくらせないために
平和憲法を守ろう！
川端春代・山下浩一　今こそ　戦争放棄だ！！
和田里眞弓　「剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする」（イザセ書２章４節）
諸橋泰樹　真珠湾は日米間の問題、ヒロシマは世界の問題。
石原隆　岸田を許さない
中村信義　キナ臭い現代　声を上げる必要があるのでは
森下茂・鈴木多津子　ロシアはウクライナから全面撤退しろ！
石田弥生　武力で平和は来ない。敵基地攻撃能力はいらない。
トマホークなんてとんでもない。
竹田良子　丸腰の精神つらぬきたい
西川恵子　憲法九条を世界に！
中本静恵・中本忠治　私は平和がよいです。
国富建治・国富泰子　自然と人間がともに生きられる社会
核兵器、原発、大軍拡に反対します。
鈴木康紀　九条死守　改憲反対
倉澤憲司　ゲン・中沢さん、全世界のなかまとともに、
戦争絶対反対！核廃絶！
金久保達男　私は平和のスポンサー
戸野寿美江　ストップ改憲　憲法を活かそう
清水雅子　憲法９条は世界の宝
土井律紀・尚美　憲法違反の大軍拡を止め、安心・安全に暮らせる生活優先の政治へ転換を！

8.6 ヒロシマ平和へのつどい 2023　～NATOの世界化に反対し、東アジア共同体をめざそう～

被爆・敗戦 78 年
広島から非武装・非同盟中立の日本を

8 月 5 日　8.6 ヒロシマ平和へのつどい

8 月 6 日　グラウンド・ゼロのつどい　8 時 15 分 ダイ・イン

8.6 反原発 広島デモ　広島一の繁華街「紙屋町交差点」を右折横断。全ての車が止まり、電車の線路を踏み越えて歩く (尹康彦さん提供)

中国電力本社前の座り込み　島根原発を廃炉に！　再稼働反対！　上関に核のゴミを持ってくるな！（渡田正弘さん提供）

「島根原発 2 号機再稼働」反対の署名のお願い

上関原発止めよう！広島ネットワークは、6 月から中国電力の「島根原発 2 号機再稼働」反対の署名集めを開始し街頭でも呼びかけています。

今回計画された「中間」貯蔵施設には島根原発から出た「使用済み核燃料」も搬出されることになるでしょう。島根原発敷地内での保管は約 6 割で、余裕はまだ 43%もあります。稼働させなければこれ以上増えないのです。そのため署名を続けていきますので、どうぞご協力ください。　　（文責・写真：渡田）

＝今後の活動予定＝

1、「島根原発 2 号機再稼働」反対街宣・署名集め
　9 月 16 日（土）、9 月 30 日（土）10 月 8 日（日）10 月 22 日（日）
いずれも 16：00 より　広島本通り「洋服の青山」前
2、署名提出予定 10 月 26 日（木）反「原発の日」中電前行動後 13 時

活動報告（第九条の会ヒロシマほか　関連団体、実行委員会含む）

6 月　6 日（火）　第九条の会ヒロシマ会報 117 号と 8.6 新聞意見広告チラシ発送作業　市民交流プラザ　13 時～
18 日（日）　“花ばぁばは、日本軍「慰安婦」でした” 上映とトーク　弁護士会館 13：30 ～
23 日（金）　6.23「沖縄慰霊の日」ひろしまのつどい　　18 時～　平和公園親水テラス
24 日（土）　シンポ「はだしのゲン」削除　これでいいのか！？　ヒロシマの平和教育　　弁護士会館 14：00 ～
28 日 (水)　中国電力株主総会参加＆　街頭宣伝　9 時～ 13 時　中国電力本社前
第九条の会ヒロシマ世話人会②　国際会議場 3 F 研修室　14 時～
30 日（金）　ピースリンク広島・呉・岩国　呉駅前街宣 17 時半～　　＆　例会　呉 YWCA

7 月　1 日（土）　「1 の日行動」ミャンマーを忘れないで -（本通り青山前）1500
3 日（月）　ヒロシマ総がかり「3 の日」街宣　17 時半～　広島本通り電停前
3(月) ～ 17(月)　「世界遺産宮島を守ろう」ロビー展（はつかいち文化ホールさくらぴあ）
5 日（水）　第九条の会ヒロシマ世話人会③　国際会議場 3 F 研修室　14 時～
「慰安婦」ネット水曜行動　12 時～　本通り電停前
9 日（日）　ミャンマー映画上映会「夜明け」＆コパル監督トーク 広島市民交流プラザ
12 日（水）　第九条の会ヒロシマ世話人会④　国際会議場 3 F 研修室　14 時～
15 日（土）　上関ネット島根原発再稼働反対街宣＆署名活動 16 時～本通り電停前
朝鮮半島出身者の被爆の背景を考える：市場淳子講演市民交流プラザ
19 日（水）　8.6 新聞意見広告名簿整理　　国際会議場 3 F 研修室　13 時～
20 日（木）　8.6 新聞意見広告掲載名簿作り 13 時～　ゆいぽーと会議室 2
21 日（金）　8.6 新聞意見広告掲載名簿作り 13 時～　国際会議場 3 F 研修室
23 日（土）　共生フォーラム講演会「多文化共生社会の内実」留学生会館 14 時
25 日（火）　8.6 新聞意見広告紙面校正　　13 時～　　ゆいぽーと会議室 2

8 月　1 日（火）　「1 の日行動」ミャンマーを忘れないで -（本通り青山前）15:00
2 日（水）　「慰安婦」ネット水曜行動　12 時～　本通り電停前
3 日（木）　上関ネット使用済み核燃料貯蔵施設計画抗議街宣 & 抗議文提出
5 日（土）　8.6 ヒロシマ平和へのつどい 23　広島市民交流プラザ 5F 研修室
6 日（日）　8.6「原爆の日」行動　7：45　グラウンドゼロのつどい（原爆ドーム前）
8：15　追悼のダイイン（原爆ドーム前）
8：30「8.6 広島デモ」出発（原爆ドーム前～中電本社前）
9：30　脱原発座り込み行動（中電本社前）
11 日（金）　8.14 日本軍「慰安婦」メモリアルデー「もうひとつのレイテ戦」上映とトーク（弁護士会館）13：30
16 日（水）　広島と沖縄をむすぶドゥシグヮーの会（広島ＹＭＣＡ２号館４階）
19 日（土）　上関ネット島根原発再稼働反対街宣＆署名活動（広島本通り）16:00
25 日（金）　中国電力へ上関へ使用済み核燃料貯蔵施設建設撤回を求める要請　上関ネット等 6 団体で
26 日（土）　岩国基地の拡張・強化に反対する広島県住民の会　講演：桜井国俊さん（広島弁護士会館）
28 日（月）　ピースリンク８月街宣呉駅前　17：45　　例会 18：30（呉ＹＷＣＡ）

9 月　1 日（金）　「1 の日行動」ミャンマーを忘れないで -（本通り青山前）15:00
5 日（火）　県住民の会　オスプレイ超低空飛行容認する日米合同委員会の合意撤回を要請　中四国防衛局＆県知事
7 日（木）　「沖縄戦終結調印の日」ドゥシグヮー主催　高井弘之講演：（原爆資料館地下 1）18:30
9 日（土）　九条の会「9・9 全県交流会」　広島弁護士会館　14：30 ～
13 日（水）　第九条の会ヒロシマ会報 118 号発送　13 時～　広島市民交流プラザ 3F 会議室

8.3 使用済み核燃料貯蔵施設抗議街宣

8.14 日本軍「慰安婦」メモリアルデー

（岡原美知子さん写真提供）

お知らせ

◆第 28 回さよなら原発歌声パレード in 尾道
9 月 16 日 (土)13：30 ～尾道駅前芝生広場＆パレード
リレートーク・歌声（川口真由美さんが参加）
主催：フクシマから考える一歩の会他 2 団体

◆川口真由美ライブ in おのみち
9 月 16 日 (土)16：00 BANK（旧三井住友銀行尾道支店）
講師：川口真由美さん　　参加費：700 円
主催：フクシマから考える一歩の会・尾道母親大会連絡会
連絡先：090-2002-8667（小林）

◆狭山事件の再審を求める 23 デー行動
9 月 23 日 (土)14：00 ～福山駅前・釣り人像前
リレートーク・スタンディング・署名・リーフ配布
主催：狭山差別裁判を考える福山市民の会
連絡先：090-2860-4737（武藤）

◆憲法９条を守る　　第 18 回　音楽と講演のつどい
10 月 15 日（日）午後２時～４時 ビューポートくれ
資料代：500 円〈学生・障がい者は無料〉申込不要
第１部　音楽：オカリナ演奏〈Ｅｍｉさん〉
第２部　講演：瀬戸麻由さん〔カクワカ広島〕
主催：呉九条の会連絡センター（総がかり行動呉地域）
連絡先：080-3876-4543（伊藤）　090-1185-5011（岡西）

◆和解を導いた力 Part3
西松建設裁判原告・宋継堯さんの闘いをふりかえる集会
10 月 14 日（土）14：00 ～ 16：30　広島弁護士会館
参加費：500 円、申込不要

◆第16 回中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集い
10 月 15 日（日）13:30～安野 中国人受難之碑前（安芸太田町坪野）
11：00 ～ 12：30　坪野フィールドワーク
14：50 ～ 15：30　善福寺で追悼法要
参加費：無料、申込不要「集い」前後にも活動あり。
＊広島市内から現地へバス有　バス代 1000 円（要申込）
主催：広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会
連絡先：080-3880-8340（川原）

◆『ワタシタチハニンゲンダ』上映会（2022 高賛侑監督)
10 月 21 日 (土)14：00 福山市市民参画センター 5 階
上映：ドキュメンタリー映画『ワタシタチハニンゲンダ』114 分
資料代：500 円（18 才以下無料）
主催：市民運動交流センター（ふくやま）
連絡先：090-3748-9840（坪山）

◆九条の会・はつかいち総会・講演「僧侶が語る反戦平和」
10 月 21 日 (土) 廿日市市市民活動センター
オンライン　fujigen@abelia.ocn.ne.jp（10/17 締切）
総会　13：30　記念講演会 14：00 ～
講師：小武正教さん (念仏者九条の会、本願寺派西善寺住職）
連絡先：090-3373-5083(新田)

◆第 16 回共生フォーラムセミナー
「中国残留日本人家族の現実
ー中国残留日本人３世が語る日本社会の現実」
10 月 29 日（日）14：30 ～ 16：30　広島市西区地域福祉センター
講師：王賀（ワン　へー）さん
参加資料代：500 円（正会員、大学生以下無料）
録画配信：会員向けの無料録画配信あり。申込下記 Email
主催：NPO 法人共生フォーラムひろしま
後援：広島市・広島市教育委員会
連絡先：070-3771-9235（事務局）kyosei.fh@gmail.com

◆島根原発 2 号機再稼働と中間貯蔵施設問題を考える
11 月 12 日（日）14 時～ 16 時半　広島弁護士会館（予定）
参加費：700 円 (会場が変わる場合もあるのでご連絡を！)
講演：芦原康江さん（元松江市議）
報告：溝田一成さん　中間貯蔵施設問題
共催：上関原発止めよう！広島ネットワーク
さよなら原発ヒロシマの会
連絡先：082-576-0285（溝田）

◆憲法から学ぶ平和のつくり方（仮題）
11 月 18 日（土）13：30 ～　三原市立中央図書館 3 階
講師：松岡幸輝弁護士（広島弁護士会、
資料代：500 円　　安保法制違憲訴訟事務局長）
主催：九条の会・三原　　連絡先：090-7540-9470（上羽場）

◆女性に対する暴力撤廃国際デーキャンドルアクション
11 月 25 日（土）17：30 ～ 18：30（少雨決行）原爆ドーム東側
キャンドル点火・リレートーク

◆日本軍「慰安婦」問題解決のための水曜街頭行動
10 月 4 日、11 月 1 日、12 月 6 日（原則第 1 水曜）12 時～ 13 時
広島本通り電停前（青山側）リレートーク・チラシ配布・ダンス
主催：日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク
連絡先：090-3632-1410（土井）

◆「１の日行動」　ミャンマーを忘れないで
10 月 1 日（日）11 月 1 日（水）12 月 1 日（金）　予定
15 時～ 16 時　広島本通り電停前　（青山紙屋町店前）
リレートーク・チラシ配布・支援募金
主催：ミャンマー (ビルマ) の市民の訴えを聞く会
連絡先：080－5233－3429　odake@orangeocnnejp（小武）

事務局から

2023 年の会費・カンパをお願いしま～す！

- 8.6 意見広告 23 が掲載でき、ご賛同くださった皆さんに感謝！今秋も皆さんと共に岸田政権の大軍拡、改憲に立ち向います。
- タックシールに皆さまの入金状況を記載しております。間違いがあれば、遠慮なくご連絡くださいますように。
- 意見広告に全財産をつぎ込みました！　この会報の印刷・発送費は今秋の皆さんの会費・カンパが頼りです。23 会費がまだの方、また再カンパなど、ご支援を、何卒！よろしくお願い致します。

後記

8.6 意見広告は「憲法を活かそう」と願う皆さんのあつい想いをこめようと一生懸命です。名前の記載や間違いがあって申し訳ない気持ちでいっぱいですが、朝日だけでもカラーにできてよかったです。（中国は白黒で残念！）同封の 8.6 意見広告をご覧になると、どうしてもカラーでという気持ちがお分かり頂けるのではないかと。しかし昨年の赤字も引きづって財政がひっ迫し、経費を全部支払うと 残金は ０円です！今後も会報を通じて全国の皆さんと繋がり合いたいと切望します。可能な範囲でご支援を頂ければと思います。大増税や物価高騰の時、大変心苦しいのですが、何卒！よろしくお願いいたします。